

2008

2008

P. 1

P. 7

P. 15

P. 19

P. 81

P. 99

P. 109

P. 119

P. 143

P. 149

P. 155

P. 181

P. 189

P. 205

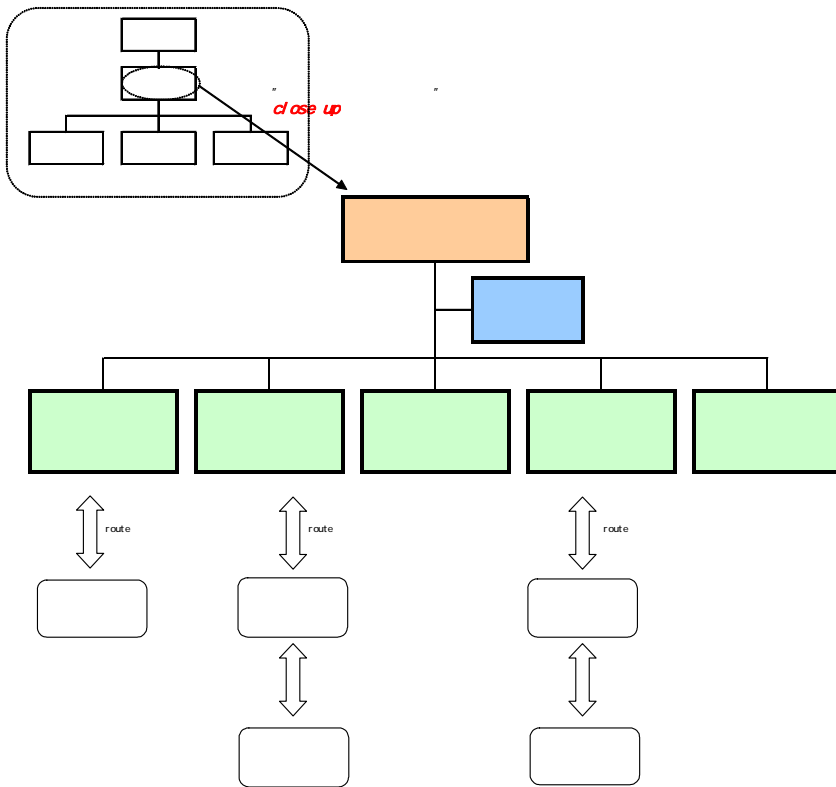
P. 211

P. 221

P. 225

2004

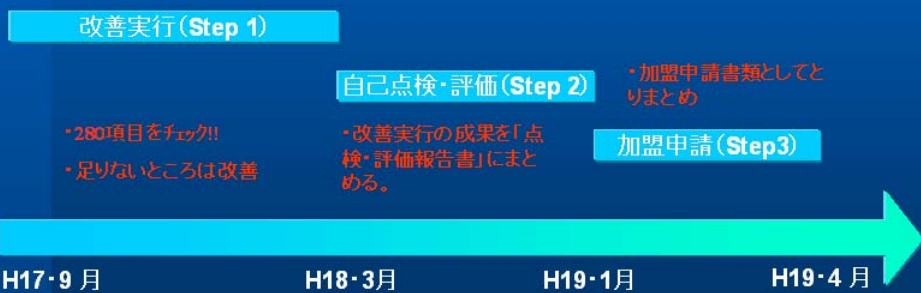
- 1



- 1

# 加盟申請スケジュール

## 作業工程



2007 12  
2007 6  
2007 4  
2007  
2007  
2007 7  
2008  
2007 4  
2007 1  
LAN 2006 11

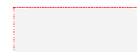
2007  
2007 1  
2007 10

”

“

2007 5 1

2007 5 1



2004 4 1 2007 5 1

2007 5 1




1935

1999 4

1989

10

10

1964

1998

2002

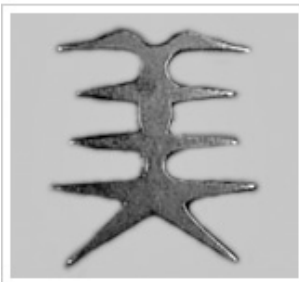
1995




創立当時の西洋画棟壁面に取りつけられた紋章レリーフ

1935

10



多摩帝国美術学校校章  
(杉浦非水デザイン)

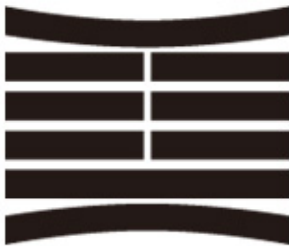
1953

TTB

60

1995

UI



現在のシンボルマーク

“ ” “ ” “ ”

教育目標



教育の特色

教育の領域 (油画)

美術作品制作

導入教育 (作家としての基礎を固める)

- 美術とは何か？また制作についての考え方を学びます。
- 様々な素材を使い、自分にとっての表現を探します。
- 学科受講により知識を深め、制作の内容を豊かにします。
- 表現のための基本を身につける時期と位置づけ、積極的に制作してください。

基礎教育 (コース別指導でより深く)

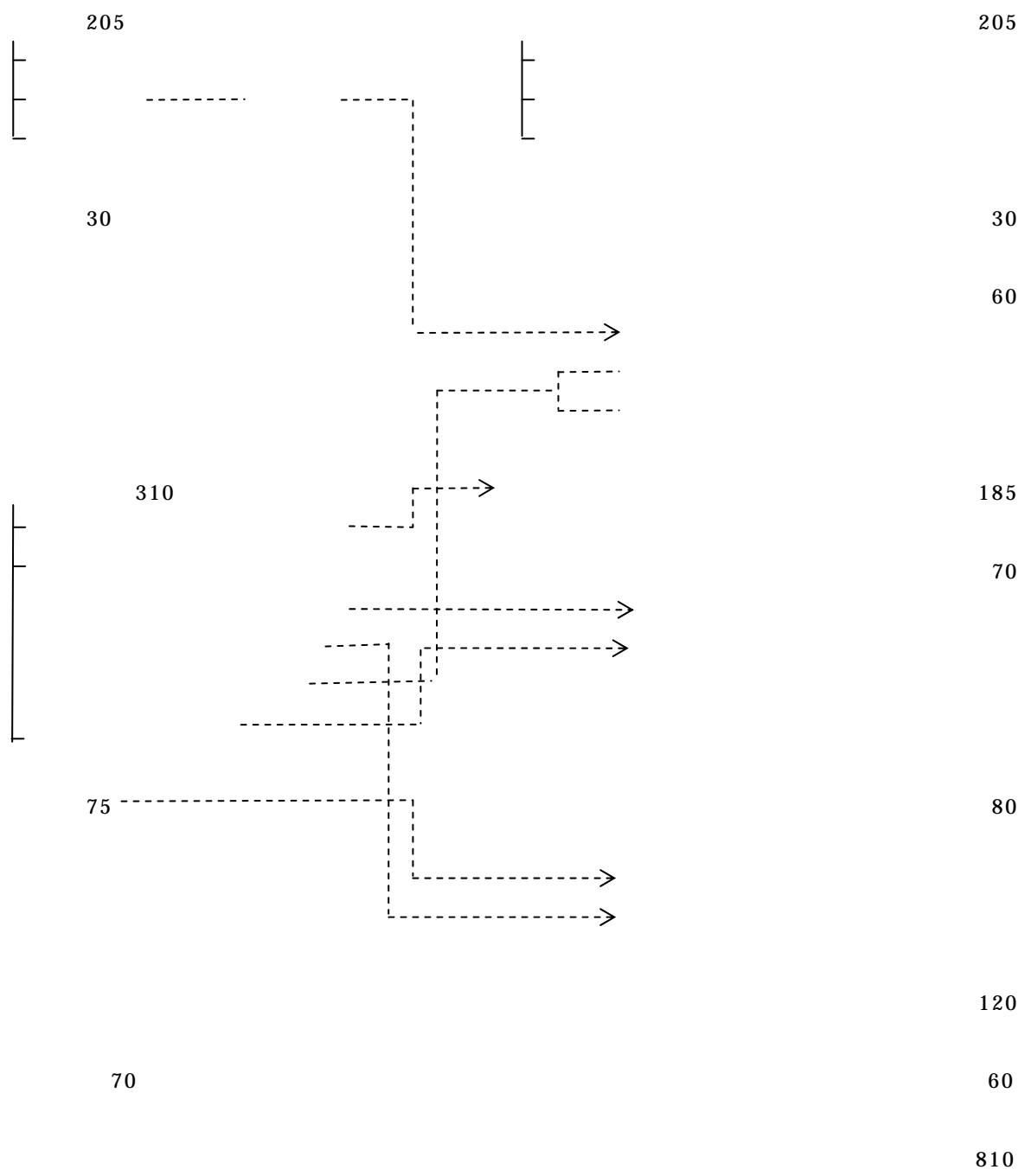
- 選択したクラスで、自分が求めている表現を模索します。
- 与えられたテーマにそって制作し、他の学生の作品からも新鮮な発見をします。
- 批評会での発言を積極的に試み、自分の位置を明確にしてゆきます。
- 学内の実習だけではなく、広く外にも目をむけて視野を広げてください。

2006

2008

2006- 2007  
2006 5


1998 4



1998

11 12

141 2006  
2003

2006 7 8

2 7

23

12

15

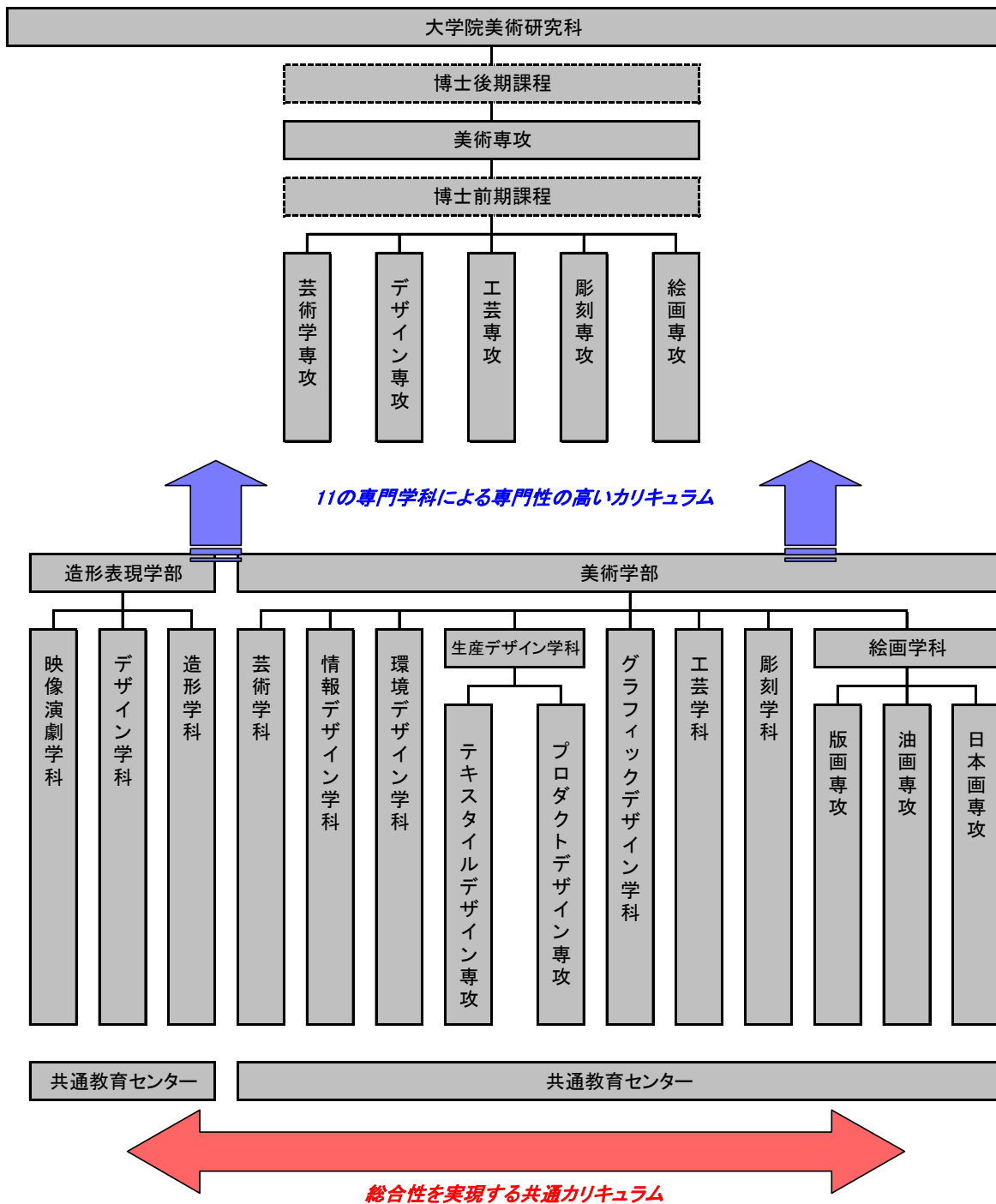





- - 1 2

P. 34- 36

2008



			30	116
		190	130	722
			30	110
			30	120
			60	240
			180	652
			45	150
		85	40	310
			80	300
			120	480
			55	220
			40	160
			100	400
			60	240
		1,000	3,844	

- -1

2007

			60	120
			12	24
			10	20
			45	80
			7	14
			7	21
		141	279	

- -2

2007



“ ”

	19 52 52

- - 1 2





“

”



45

FIELD TRIAL

STUDY

METHOD



芸術学科 履修フロー

	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	卒業後の進路
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●専門教育科目</li> <li>○基礎教養課程Ⅰ-Ⅱ</li> <li>○芸術学基礎Ⅰ-Ⅴ</li> <li>○21世紀文化論Ⅰ(基礎講座)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○芸術学基礎Ⅵ-Ⅹ</li> <li>○21世紀文化論Ⅱ(基礎講座)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○21世紀文化論Ⅲ(基礎講座)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●修士研究</li> <li>●修士論文(修士学)</li> <li>●比較芸術学</li> <li>●日本美術史</li> <li>●西洋美術史</li> <li>●東洋美術史</li> <li>●現代美術批評史</li> <li>●近代美術史研究</li> <li>●芸術制度論</li> <li>●芸術文化源流論</li> <li>●新情報</li> <li>※4科目以上選択</li> <li>○修了論文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸術関係の研究者 [A] + C F G</li> <li>芸術関係の教育者 [C E] + G H A</li> <li>美術館・画廊 [E F] + H A D</li> <li>出版物の編集者 [E F] + A B D</li> <li>コピーライター [E F] + A B D</li> <li>商品の購買プランナー [A] [C] + D E F</li> <li>メディアのプロデューサー [A] [E] + D E F</li> <li>アートディレクター [E F] + G A B</li> <li>展覧のスタッフ [B] [C] + D G H</li> <li>芸術関係のキュレーター [E] [G] + C E G</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現代美術論Ⅰ</li> <li>●批評・キュレトリアル論Ⅰ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●都市論</li> <li>●都市と芸術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●美術概論</li> <li>●現代美術論Ⅱ</li> <li>●批評・キュレトリアル論Ⅱ</li> <li>●美術史概論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●展示会設計</li> </ul>		
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手と眼Ⅰ</li> <li>●表現の現場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現代芸術概論</li> <li>●美術概論</li> <li>●手と眼Ⅱ</li> <li>●美術教育論</li> <li>●物質論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワークショップ論</li> <li>●伝言論</li> <li>●現代美術概論</li> <li>●芸術計画論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●展示計画設計</li> </ul>		
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>●映画の現在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パフォーマンスアート史</li> <li>●映像と身体</li> <li>●写真表現</li> <li>●映像文化論</li> <li>●映像理論Ⅰ・Ⅱ</li> <li>●身体文化論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●映像文化論</li> <li>●映像文化研究Ⅰ</li> <li>●映像文化研究Ⅱ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●映像文化設計</li> </ul>		
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>●書籍メディア研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経典文化論</li> <li>●形の平面的</li> <li>●設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●書籍思想史</li> <li>●自然と書籍</li> <li>●書籍思想論</li> <li>●書籍設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●書籍設計</li> </ul>		
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アヴァンギャルド</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●美術概論</li> <li>●現代表現論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経典論</li> <li>●日本のアヴァンギャルド</li> <li>●アヴァンギャルド研究</li> <li>●伝言論</li> <li>●アール・ヌーヴ設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アール・ヌーヴ設計</li> </ul>		
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東西デザイン史</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●デザインと民族</li> <li>●展覧空間のネットワーク論</li> <li>●ユー・ロー・アヴァンギャルド美術史概論</li> <li>●デザイン思想史Ⅰ(絵とデザイン)</li> <li>●デザイン思想史Ⅱ(建築とデザイン)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●展覧空間Ⅱ</li> <li>●展覧デザイン(建築設計)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●展覧デザイン(建築設計)</li> </ul>		
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>(日本美術史概論)</li> <li>(西洋美術史概論)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本近代美術史</li> <li>●日本美術史概論</li> <li>●美術学論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●美術史概論</li> <li>●アメリカ近代美術史</li> <li>●フランス近代美術史</li> <li>(日本美術史研究)</li> <li>(西洋美術史研究)</li> <li>(西洋美術史研究)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●美術史設計</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●美術史系科目</li> <li>●外国語科目1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●美術史系科目</li> <li>●外国語科目2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●美術史系科目</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●美術史系科目</li> </ul>		

※専門1は選択科目(実学)と卒業論文(論文)による科目を合わせて構成される。  
 ( )は共通教育科目を示す。  
 ○必修、●選択必修の別

--	--

“ ”	“ ”
-----	-----

	Engl i sh i n Desi gn
	20
	20

- - 4


- - 4

2007

- - 5

	(2)	(2)		
(4)		(2)		(2)
	(4)	(4)	(4)	
(2)				
	(2)		(2)	
		(2)	(2)	(2)
		(2)		
	(4)		(4)	(2)



教養教育の基本的考え方

- 豊かな教養を育むためには、共通教育センターが設置する講義を中心とした科目と、充分な経験を踏まえた専攻分野の基礎能力の習得を両輪とする「教養教育」をバランス良く実施することが必要です。
- 多摩美術大学が学生に求める、①物事を幅広い視点でとらえる能力、②キャリア形成能力、③豊り豊かな学生生活を送るための目的意識と方向感覚の形成によって「教養教育」は無くしてはならない。
- これらの能力を身につけるには、専攻分野における基礎的習得、②専攻を越えて幅広い分野に触れる機会を取り入れること、③批判精神を持って、それらを自らの内で咀嚼し、情報リテラシーなどを活用して、他者に向けて発信できるコミュニケーション能力を習得することが必要です。
- 共通教育センターと専門学科との連携による「教養教育科目群」により、様々な学習機会を提供します。実践的な能力の形成だけでなく、「いかに生きるか」という本質的な目標を達成する手助けにもなることでしょう。こうした大きな意味を帯びるものを、多摩美術大学では「教養教育」と位置付け、欠すまいと推進します。

教養教育における専門学科と共通教育センターの役割分担

- 専門学科においては専攻分野の基礎能力の習得を主たる役割とします。共通教育センターは、専門学科との連携とリテラシーの提供を主たる役割とします。
- 専門学科は、専攻分野の基礎的な能力の習得と、教養教育を提供します。
  - 専門学科は、専門教育科目の履修と、他専門学科に公開することで他分野に触れる機会を提供します。
  - 共通教育センターは、芸術・デザイン分野と連携を軸とする講義科目群を形成し、教養教育を提供します（上記の専門教育科目とは性格を異とするものです）。
  - 共通教育センターは、専門学科と連携を図りながらコミュニケーション能力の向上のため、協学、情報技術に関するリテラシー教育を提供します。
  - 専門学科と共通教育センターの連携により、運動関連科目等（保健体育科目、教職・学芸員科目等）を提供します。
- ※遠形表現学部は、各学科設置の専門教育科目を、他専門学科へ公開していません。  
※遠形表現学部においては、「共通教育センター」は「共通教育」に組み込まれます。

美大における教養教育の現在

- かつて多くの大学では、専門課程に進む前に、基礎的な力や人間性を涵養することなどを目的として、教養課程や教養部を設けていました。しかし現在では、「基礎的な力」や「人間性」、「教養」に対する万人に共通する認識は薄薄になってきています。現代においては、各人が自分なりの生き方を発見し、それに沿った“知”を自分のものにするのが求められています。
- 美大においても、技術革新やグローバル化などにより表現の領域が広がり、求められる知識は非常に幅広くなっています。例えば先端技術を取り入れた表現は、今昔においては当たり前な表現方法になっており、数学や物理学、工学などの分野の知識は新しい発想をもたらすと考えられます。その一方で、先端技術を取り入れた表現の振り返りとして身体を覚悟する傾向も見受けられます。
- このような社会状況を受け、美大は新しい教養教育として、「専門分野の枠を越えて共通に求められるべき基礎的な知識の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い理解するための消費」と申請書は、文部科学省に答申しています。
- 現代は様々なものに囲まれた時代である一方、多くの人が心の息苦しさを感じています。そんな中で求められるものは、自らの立脚点を確認し、生き方を探る力であり、それこそが教養である。私たち多摩美術大学は考えます。
- 生きた知識に基づく自由な発想を培うことにより、創造的な人間は生み出されます。表現は“知”を求め、“知”は表現を必要とします。美術大学では、充分な経験を通じて対象とじっくり向き合う力によってもの見方を深め、既成概念を打ち破る新たな“知”を切り開いて行く必要があります。また、未来に向かって新しい生き方を社会に発信してゆくためには、それを確かな表現として定着させなくてはなりません。“知”と“表現”とを車の両輪として前進する力を養うことが重要です。
- このように①様々な教養の在り方、さらに教養そのものに対する基盤も含めて思考していくこと、②教養（そのものに対する基盤も含む）を手にするものとして、自らの力にして行くことが、現在の美大における教養教育に求められることであると認識しています。

“ ”

“ ”

“ ”

“ ”

“ ”

“ ”

“ ”

	<p data-bbox="284 450 352 472">" "</p> <p data-bbox="820 499 888 521">" "</p> <p data-bbox="363 589 560 611">" " " "</p> <p data-bbox="1315 409 1383 432">" "</p>






20

10

10

2006 8

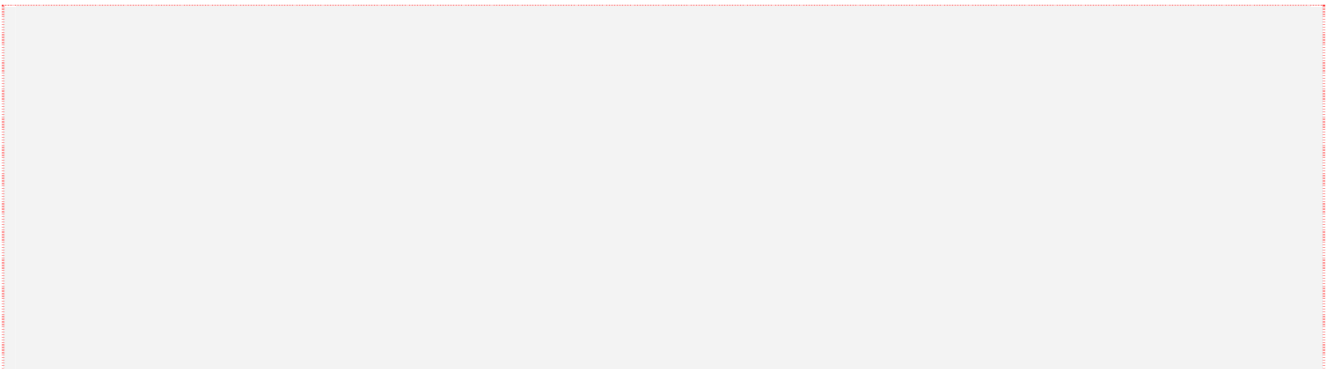
2007 1

-

P. 214-220

2007 10

	65





P. 60- 61



PBL

”

PBL

“

- -7 8

	2005
	2006 2007
	2002 2007
	2001 2007
	<p>1986</p> <p>3 PBL Project Based Learning 4 1</p> <p>2006</p> <p>4 Universal Design with Robots</p> <p>4 TOKYO NEXT DESIGN PROJECT 2006 TOKYO NEXT DESIGN PROJECT</p> <p>3 2015 Redesign</p> <p>2007</p> <p>1 TOKYO NEXT DESIGN PROJECT 2007</p> <p>4 Only Planet NOKIA</p> <p>4 TOKYO NEXT DESIGN PROJECT 2007</p> <p>3 30 fudanghi</p> <p>3 (va)</p> <p>3</p> <p>3 Agent Technologies</p> <p>2.3</p> <p>2000</p> <p>2005</p> <p>3 Happy Feeling? AXIS</p> <p>3 Tokyo Designers Week</p> <p>2006</p> <p>3 2015 Redesign</p>

	2006
	45
	2004. 9. 14 9. 19 2005. 9. 20 9. 25 2006. 9. 19 9. 23
	9

- -7

		2006. 6. 6 2007. 5. 30	
		2006. 7. 6	
		2006. 7. 20	
		2006. 7. 22 2007. 7. 21	
		2006. 10. 2 2007. 10. 9	
		2007. 10. 5	
		2007. 5. 1	

		2006. 6. 20	
		2006. 10. 13	
		2007. 10. 12	
		2007. 4. 26	
		2007. 10. 26	i n
		2007. 10. 16	
		2006. 7. 22	21
		2006. 5. 13 2007. 10. 2 2007. 10. 9	21
		2006. 11. 14	21
		2006. 12. 9	21
		2007. 7. 21	21 i mage sound and
		2006. 5. 27 7. 8	

- -8



PBL

“ ”

-

P. 127

5. 22 5. 27			
6. 12 6. 24	4	1-	
6. 26 7. 8	4	2	
7. 10 7. 15			
7. 18 7. 22	3 4	3 4	
9. 23 10. 7	TAMAVI VANT2006		( 3 4 1 )
10. 10 10. 21	4	3	
10. 23 10. 28			3 4
11. 8 11. 11	2	5 vol . 1	2
11. 13 11. 18	4	1-A	
11. 20 12. 2	3	3	
12. 4 12. 9	3	2	

PBL

PBL

PBL

PBL

- - 10

PBL - 1	1		
PBL - 2	1		
PBL - 1	2		
PBL - 3	1		
PBL - 4	1		
PBL - 2	2		
PBL - 3	2		
PBL - 5	1		
PBL - 6	1		
PBL - 7	1		
PBL - 8	1		
PBL - 9	1		

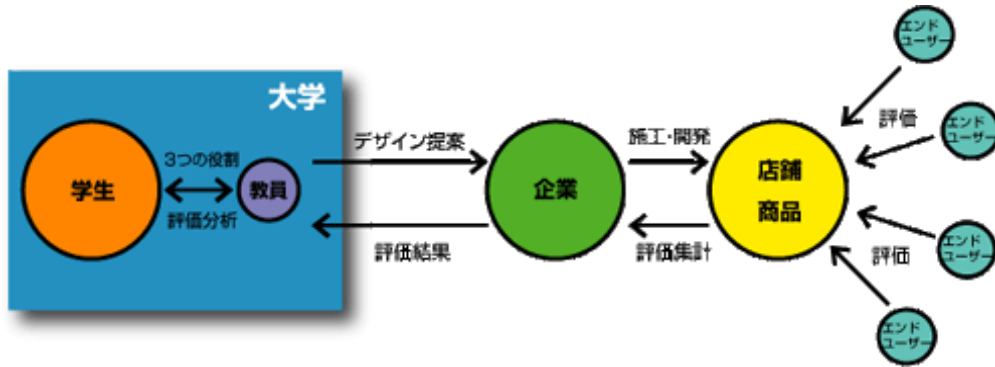
- - 10 PBL

2007

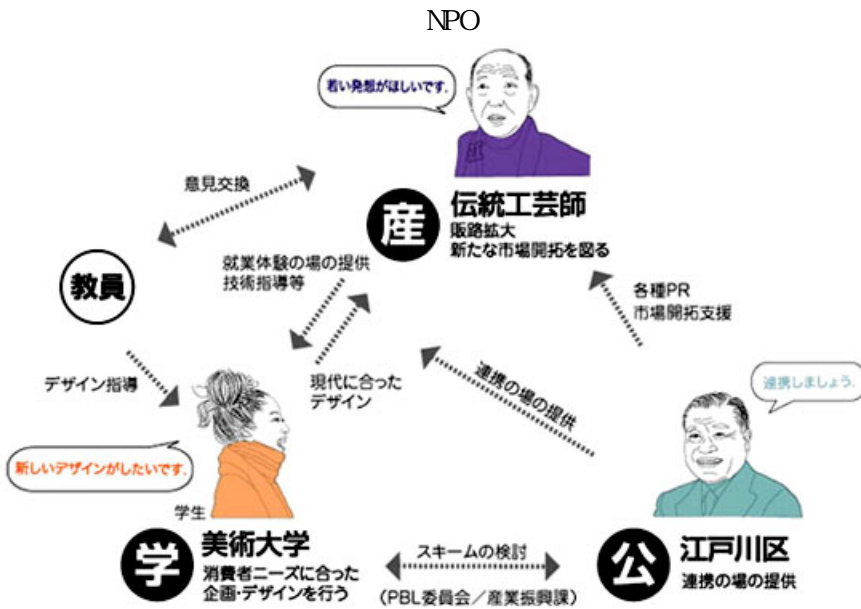
PBL

PBL

2005



2005



2005



Pacific Rim



WEB

10

2006

Pacific Rim

2007

2010

[http://www2.tanabi.ac.jp/cgi-bin/pacific\\_rim\\_2007/index.php](http://www2.tanabi.ac.jp/cgi-bin/pacific_rim_2007/index.php)

PBL

P. 12- 13

-

PBL

P. 76- 77  
PBL




124

- - 11 13

P. 24- 25

P. 26- 28

				74	74	124
		20			20	
		30			30	
				70	70	124
		20			20	
		34			34	
				66	66	124
		20			20	
		38			38	
				80	80	124
		20			20	
		24			24	
				68	68	124
		32	4		36	
		20			20	
				48	48	124
			6	42	48	
		28			28	
		4	2	94	100	124
		8	4		12	
		12			12	
		12		60	72	124
		16	4	26	46	
		6			6	
			2	89	91	124
		8		4 + 4	16	
		17			17	
				78	78	124
		4		24	28	
		18			18	
				26	26	124
		8			70	
		28			28	

	62
--	----

- -11

						54	54	124	
		40	(16)	(12)			24		64
		6							6
						18	18	124	
		40	(16)	(12)			64		104
		2							2
						32	32	124	
		40	(16)	(12)			48		88
		4							4

- -12

	8		22	30

- -13

22

30


45

15

15

30

30

45

21

0 2 0

30

45

15 30

30 45



			22	27	44.9
			11.8	13.2	47.2
			8	2	80
			19.8	15.2	56.6
			28.2	17.8	61.3
			28.2	17.8	61.3
			38	44	46.3
			38	44	46.3
			80	95	45.7
			80	95	45.7
				18.4	2.6
			2		100
			20.4	2.6	88.7
			22	30	42.3
			5.6	2.4	70
			27.6	32.4	46
			9.6	13.4	41.7
			5.1	7.9	39.2
			14.7	21.3	40.8
			1		100
			32	19	62.7
			9	5	64.3
			41	24	63.1


-

P. 149- 150

- - 15

2007 9

		2005			2006				2007			
		/	21	4	/	102	4	5	/	45	0	2
		87	/	19	0	/	0	5	1	/	0	0
		2	2	/	0	23	/	2	0	7	/	0
		/			2	13	0	/	0	10	0	/

- -15

2006

2007

2002

2005

- -16

2002	0	1	/	/
2003	0	1	/	/
2004	1	1	/	/
2005	2	1	1	0
2006	2	1	2	1
2007	2	2	2	1

- -16

60

93

44

62

30

31

14

2007 10

P. 214- 220

55




- -17 18

2007

WEB

4. 6		
4. 7		
4. 9		
4. 10		
4. 11		
4. 11 4. 19	PC    2	
4. 19	PC 20 0	
4. 27	PC	

- -17

2007

4. 7		
4. 10		
4. 11		
4. 13		
4. 13 4. 19	WEB	
4. 19		
4. 26		

- -18

2007

12

62

9 30

Face to Face

58

P. 43- 46

PBL

P. 63

FD

FD

WEB

WEB

WEB

WEB

2007

30

21

2007

VEB

2008


12

- - 19


- - 19




2007 WEB  
 2007 WEB  
 2007 WEB  
 2006  
 2009 WEB  
 WEB

2007

- - 20

1	55	97
2	54	
2	52	
3	253	

- - 20

2002

2005


30

10

10

-

P. 90- 91

-

P. 164- 165



	( )



22

30

- - 21

	2003	2004	2005	2006
	70	53	58	68
	10	14	10	10
	8	13	12	8
	25	25	36	34
	5	5	5	9
	118	110	121	129

- - 21

- - 22

	( )		
	( )		
	( )		

- -22

- - 23

2003	2004	2005	2006
3	5	2	4

- -23


150

60

124

- - 24

		1	2	3	4	
		18	18	16	22	74
		16	16	18	20	70
		20	20	14	12	66
		18	18	22	22	80
		16	16	16	20	68
		16	17	4	11	66
				12	6	
		28	30	16	20	94
		21	19	8	12	86
				14	12	
		24	30	24	11	93
					4	
		20	16	16	26	102
			24			
		12	4	4	6	88
		62				
		12	12	12	18	78
		4	4	4	4	
		+8				
		2	6	2	8	66
		12	12	8	12	
				+4		
		22			10	68
		36				

- 24

- 25

- 26

1	9: 00 10: 30						
2	10: 40 12: 10						
3	13: 00 14: 30						
4	14: 40 16: 10						
5	16: 20 17: 50						

- -25

1	14: 00 15: 30					
2	15: 40 17: 10					
3	18: 00 19: 30	①各学科の専門教育科目の時間帯			②基礎教育科目の時間帯	
4	19: 40 21: 10					

- -26


2 3

- 27

A	100 80	100 80	
B	79 60	79 70	
C	59 50	69 60	
D	49	59	

- -27

2 3

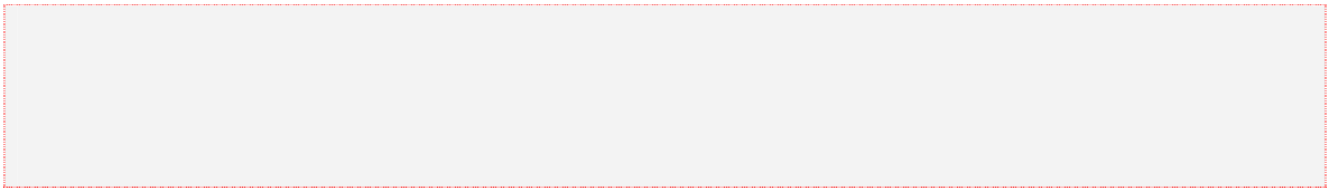
2007 10

GPA Grade Poi nt Aver age

2008

-

P. 217




-

P. 128- 130

P. 21- 23

-

P. 129- 130


P. 56- 57

2004  
- - 28

2007

2007	1		
		7. 21 7. 25 10: 00 16: 00 7. 26 10: 00 16: 00 7. 27 10: 00 16: 00 7. 28 10: 00 16: 00	
		39                      33                      6	
		11                      11	
2		7. 21 (AM)	
		PM	
		214                      12	
2006	1		
		7. 22 7. 25 10: 00 16: 00 7. 26 10: 00 16: 00 7. 27 10: 00 16: 00 7. 28 10: 00 16: 00	
		32                      25                      7	
		24                      17                      7	

- -28


1998 100

2009

2008

- - 29 30

	2003	2004	2005	2006
	66	107	92	109
	77	114	95	108
	45	65	60	71
			10	3
	27	21	26	23
	29	23	25	24
	53	60	65	80

- - 29

	2003	2004	2005	2006
	45	59	56	61

- - 30


2007

TOTO

GK

2006

42

28  
2007

32

56

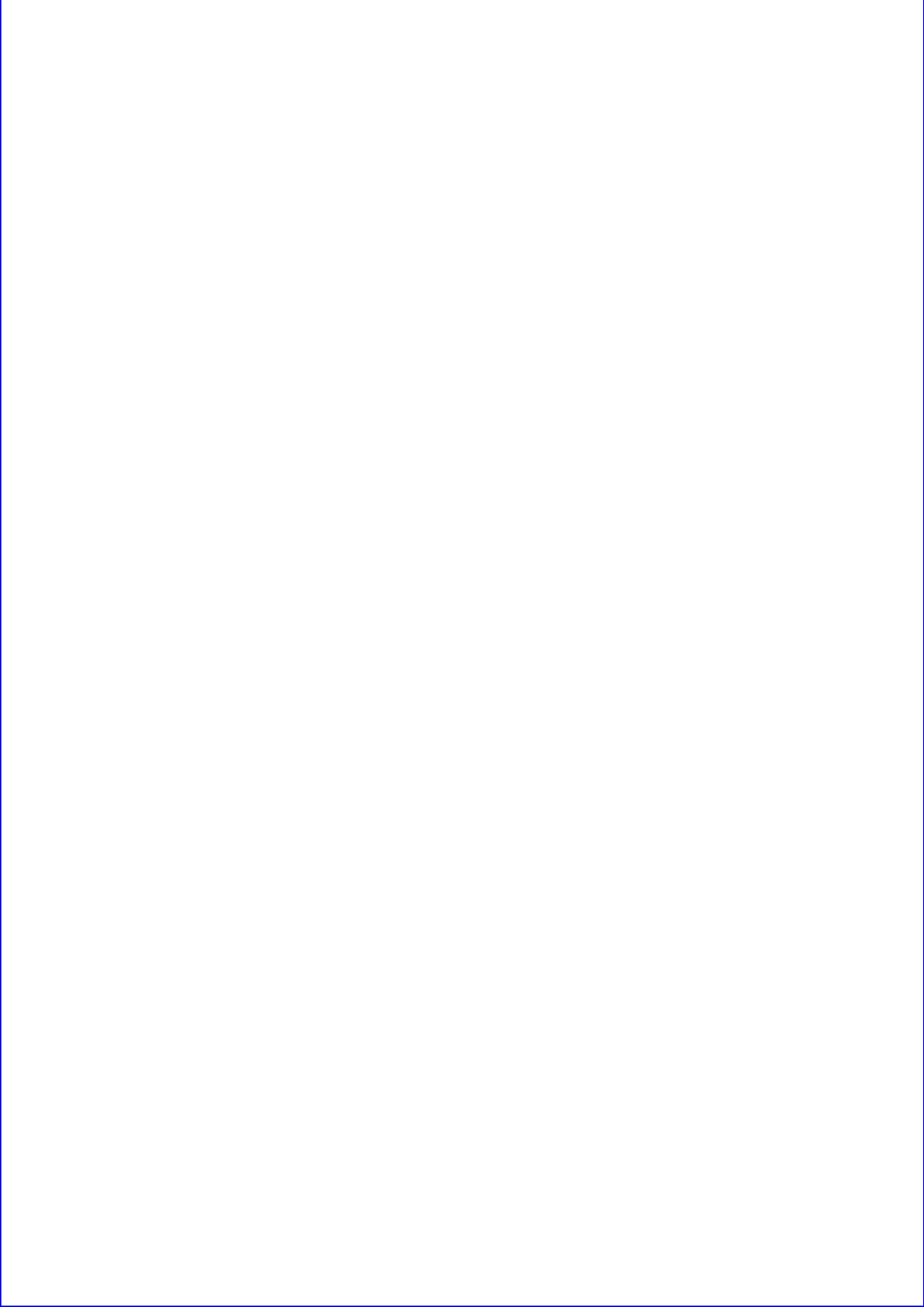
76

2007

TAMA ART UNIVERSITY 2008

P. 66


2007 4





2002

2007 7

2008

2006

20

P. 45- 46

2006 2007

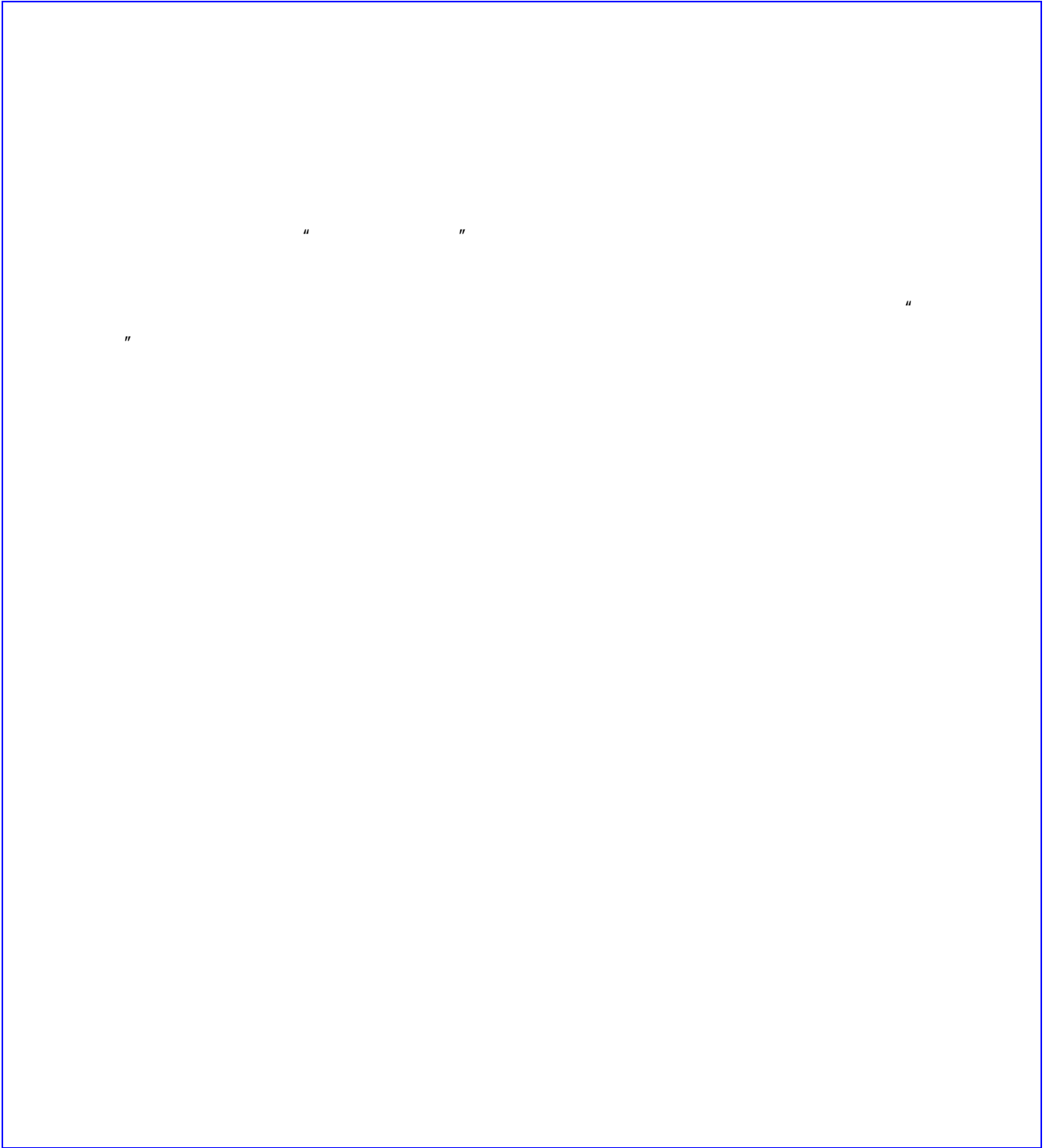
Paci fi c Ri m

2003

10





"

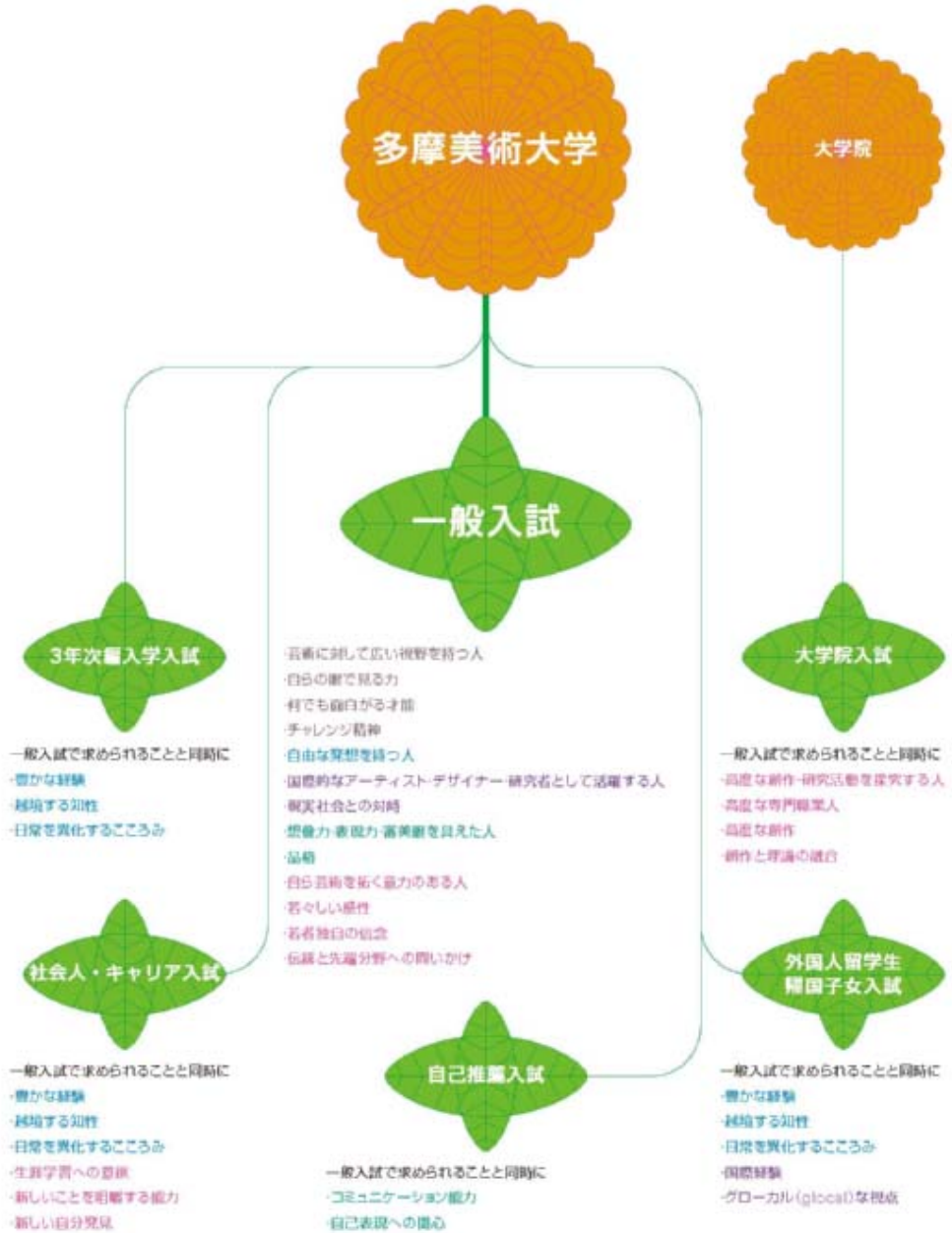
"

"

"

多摩美術大学アドミッション・ポリシー

全学共通+芸術に対して広い視野を持つ人	大学院 + 高度な創作・研究活動を探究する人
全学共通+自由な発想を持つ人	美術学部 + 自ら、芸術を切り拓く意力のある人
全学共通+国際的なアーティスト・デザイナー・研究者として活躍する人	造形表現学部+社会人としての経験を活かす意欲のある人
全学共通+想像力・表現力・審美眼を具えた人	



)

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

( )

2006

2007

( )

2008

2005

2005

2008

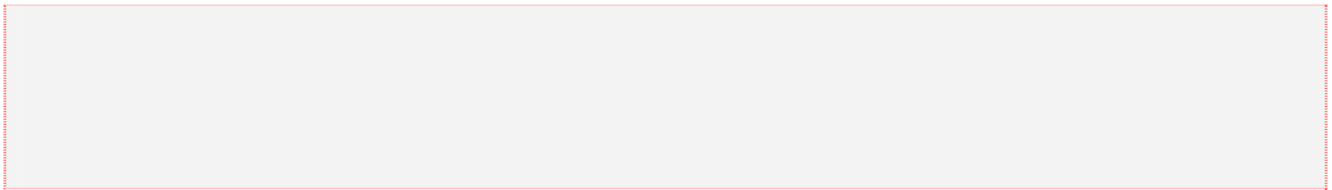
2008

AO

2007

1997

2005

134

200

135

15

70 110

200

72

35

2007

50

12

40 ( )

2003 2007

80 100

2008

124

20 40

45 55

10 15

127

89

17

2007 10 1

2007

2008

2003 2006

40 50

15

2007

96

27

10

3. 4

2003 2007 10 20

2005

20

66 65 40

44

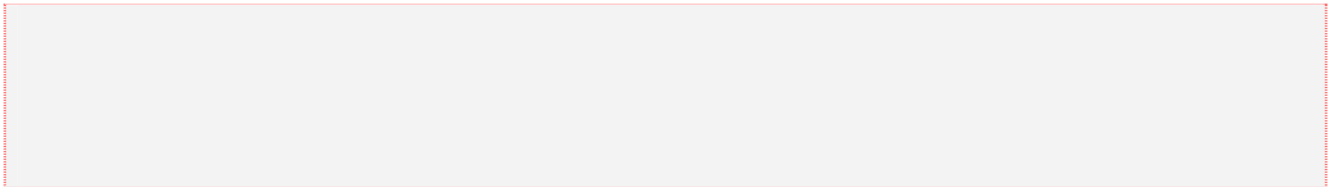
55 55

2008

20 25

2008

	( )



1998

1999

2001

-

P. 11- 13

2005

1. 2

2006

2006

2007

1. 10

1. 11

2006

1. 09

2005

1. 2

2006

2007

1. 13

1. 08

2004

2007

2008

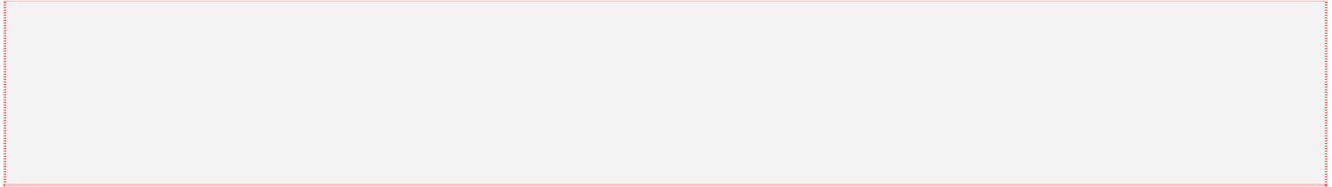
- .




P. 11- 13

2008 4

-

P. 181- 187

" "	" "	" "
		

10 20

300 350

150 200

17

2 7  
3 7

	2004	2005	2006	2007
	4, 397	4, 304	4, 495	5, 306

1998

“ ”

22

2004

2005

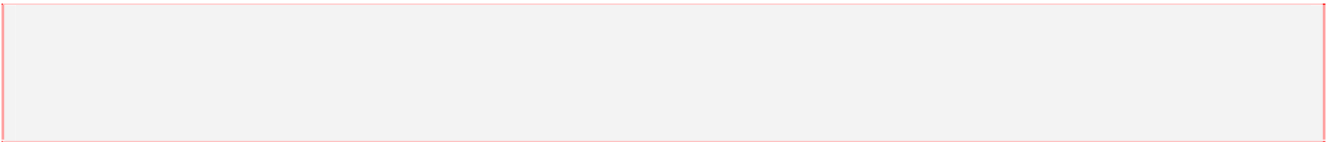
2007

12

6

8

	2004	2005	2006	2007
	3, 557	3, 505	3, 709	4, 676

1. 7 1. 9

5. 4

30 60 2006 50 3

17



	12



-

P. 16

19

3 20

2008

2007




24 25

21

- - 1

1999 4

70

67

		1999
		F@ MP
		85
		70

- - 1




CG CAD

- -2

2007. 5. 1

TA

19-2

-

P. 124

	F
	P 1 2
	F
	F
	F
(F)	(P)

- -3

2007. 5. 1

LL

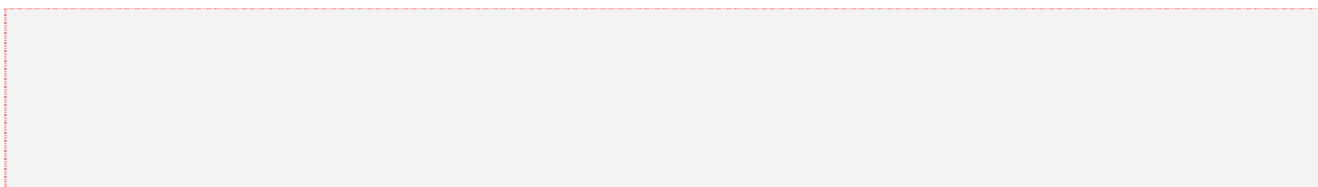
-

P. 32

TA

TA

TA



2005

GP

GP

CREST

2007 6

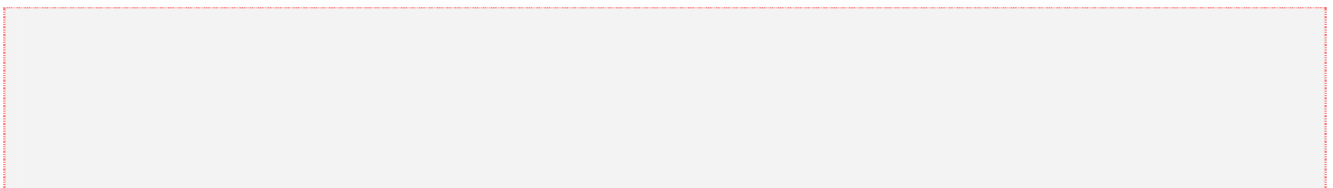
GP

GP

CREST

2007

2007 6

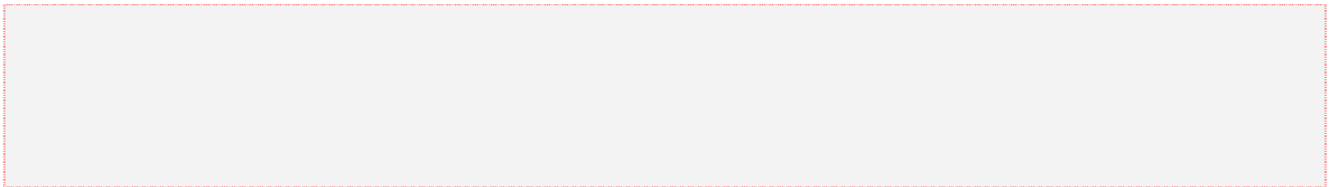



2000 4  
- - 4

			2002. 4. 1	2002. 3. 31	
			2002. 4. 1	2007. 3. 31	
			2007. 4. 1	2012. 3. 31	
			2002. 4. 1	2006. 3. 31	
			2006. 4. 1	2008. 3. 31	
			2003. 4. 1	2006. 3. 31	
			2002. 4. 1	2007. 3. 31	2004. 4. 1
			2000. 4. 1	2002. 3. 31	
			2002. 4. 1	2004. 3. 31	2004. 4. 1
			2005. 5. 1	2007. 3. 31	2007. 4. 1

- - 4

58

Professor”

“ Assistant Professor”

“ Associate

“

“

”

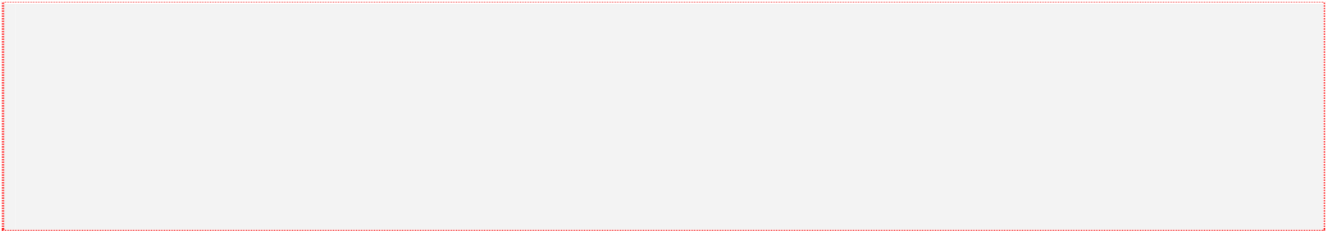
“

”

”


. 113

-

-

2007 3

10

35

90

- - 1


- - 1

2004		2004. 7. 26		
		2005. 3. 21		
		2004. 8. 28.		
		2004. 9. 27		
2005		2005. 6. 11		
		2005. 9. 25		
		2005. 7. 16		VI
		2005. 9. 13		
		2005. 4. 12		
		2006. 3. 18		
		2006. 1. 30		
		2006. 3. 2		
2006		2006. 10. 26		
		2007. 1. 15		
		2006. 6. 1		
		2007. 3. 16		
		2006. 12. 11		
		2007. 3. 9		
2007				

- -2

- -2

1998

30
----

1998

1984

- -3

	45
	35
	15

- -3

2006

54, 950

52, 339

95. 2

2008 4

2008

2006 4

400

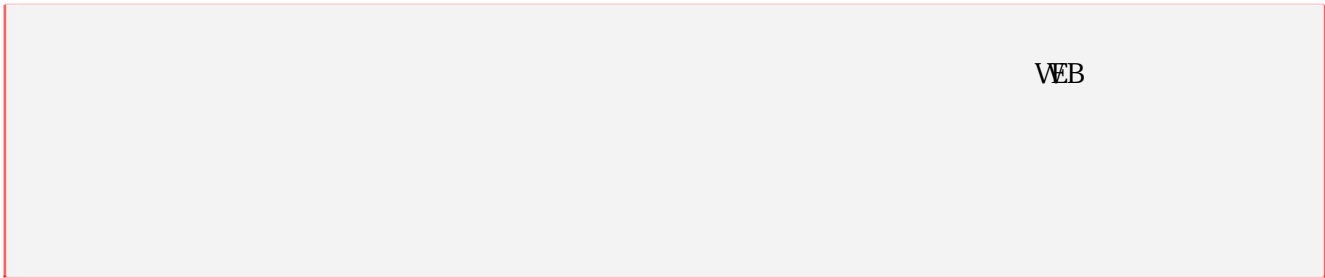
1, 700

1, 300

DVD

20

CREST

WEB

- - 4

		2.26 3.4
		3.5 3.10
		3.5 3.10
		3.2 3.12
		3.10 3.11
	HI GURE17-15cas	2.5 2.23
		3.2 3.4

	1 2	3. 9 3. 11
		3. 10 3. 13
	BankART 1929 Yokohama BankART Studi o NYK	3. 9 3. 11
		3. 2 3. 4
	BankART Studi o NYK	3. 2 3. 4
		2. 21 2. 26
		3. 21 3. 23
		3. 8 3. 23

- -4 2006

3, 000

60

Tokyo

Desi gner' s Week

-

P. 127

WEB

511

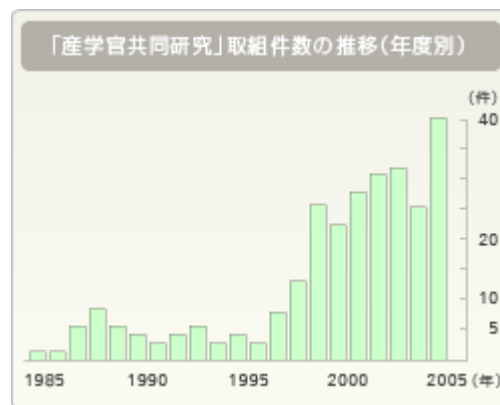
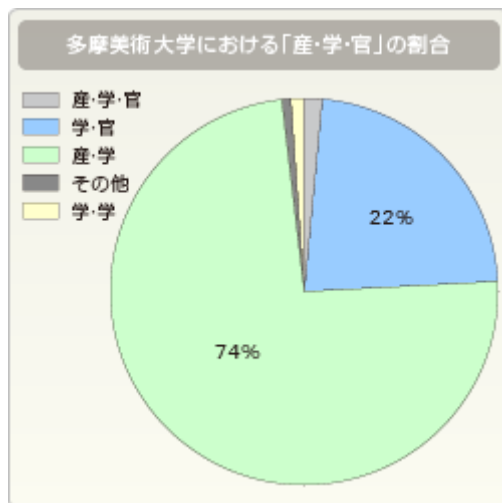
<http://faculty.tanabi.ac.jp> 2008 6

2007

22

150

- - 1



- - 1

( )

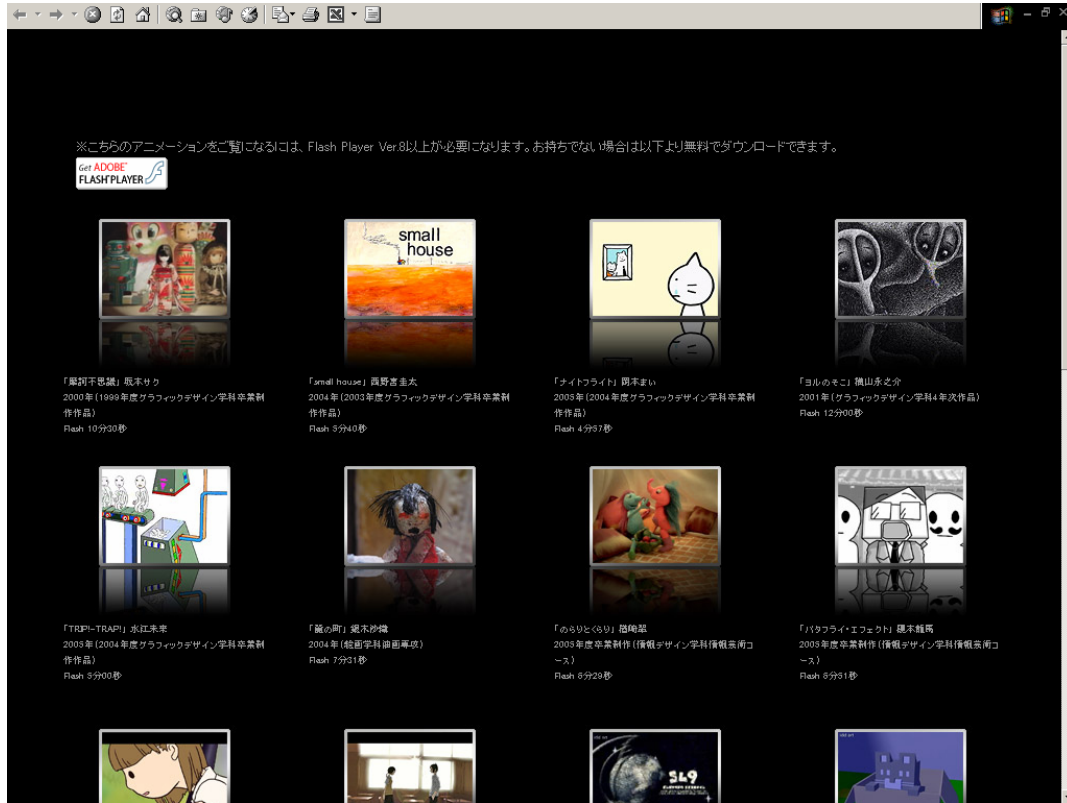
20

20

tanabi.tv http://tanabi.tv

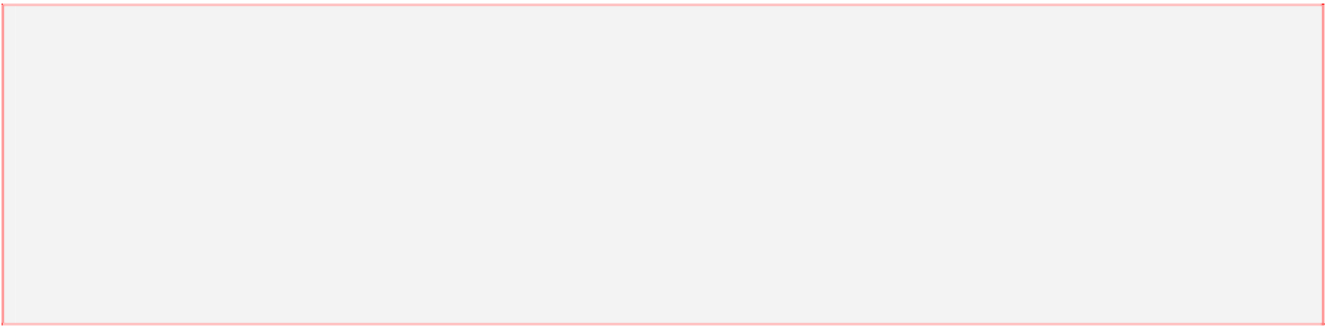
tanabi.tv

- - 2



- - 2 tanabi.tv



1993



2007

1998

-

P. 11- 13

1994

2007

84, 503

1997

2007

23

1993

2007



- - 1

- - 1





200KG



AV





LL

2005

LL

AV



AV

300

200

100





- 2

- 2

14

12





Mac236

Windows 66

302



NC

NC



VTR



VTR



AV

AV

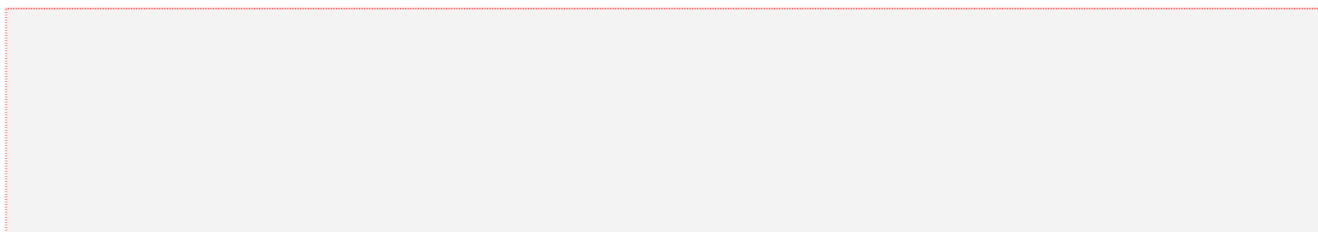
P. 42



2000

100

127

		W n	Mac	W n Mac
		10	162	172
		0	60	60
	102 103 202 205	10	31	41
	CAD	9	81	90
		4	0	4
		2	80	82
		43	47	90

		W n	Mãc	W n Mãc
		21	22	43
		38	219	257
		1	20	21
		138	722	860

- -1

Mãc

- - 1

		W n	Mãc	W n Mãc
		13	11	24
	LL	75	0	75
		0	86	86
		19	2	21
		2	0	2
		8	0	8
	1- 307	10	0	10
		3	0	3
		130	99	229

- -2

2005 3  
LL

3DCG

75

3DCG

AV

4

LAN

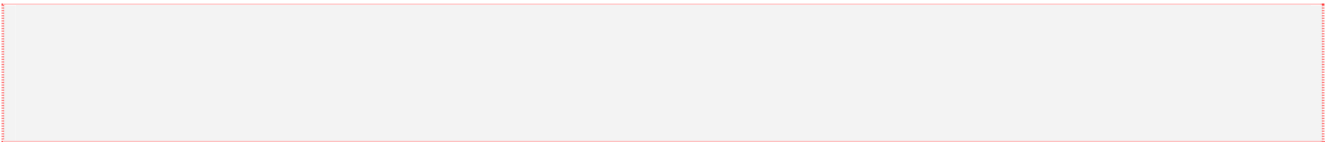
LAN

1999

9

LAN

1998

1999

2000

4

2007

-

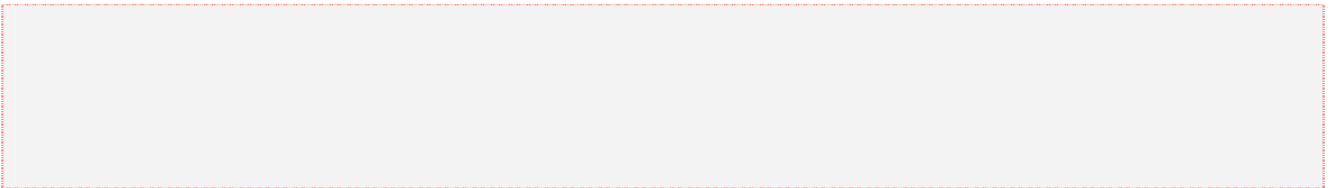
-3

	2007.3.28 2007.4.15						850
	2007.4.25 2007.5.13						1,312
	2007.5.20 2007.6.17	194	28	17	101	282	622
	2007.7.1 2007.9.2	803	224	310	622	1,050	3,009
	2007.9.12 2007.10.21	408	93	358	109	121	1,089
DAISY1993-1998	2007.11.2 2007.12.16	450	162	262	201	324	1,399
	2008.1.6 2008.3.2	211	46	155	9	73	494
	2008.3.10 2008.3.25						
		2,066	553	1,102	1,042	1,850	8,775

2008.1.31

3.28 3.31 317

- -3 2007

TINDARI



No. 7



Boulangerie Tougaku

1998  
60

300

2007

PC

TAU



1, 000

1, 500  
800

LAN



CO2

TAU



TAU

TAU

TAU

MDS

TAU

2007

300

900

100




- - 4

	9 00 21 00 9 00 17 00		
	9 00 20 30 17 00 9 00 17 00		58
	9 00 19 30 9 00 16 20		
	9 00 19 00 9 00 17 00		
	9 00 19 00 9 00 16 30		
	9 00 20 30 9 00 17 00		
	21 00 9 00 17 00		
	21 00 9 00 17 00		

	14 00 22 00 10 00 22 00		
	10 00 21 30 13 00 20 00		
	14 00 17 10		18 00
	14 00 22 00		
	9 00 21 30		
	9 00 16 00 9 00 16 00		

	10 00 18 00		

- 4

2007

58

1997

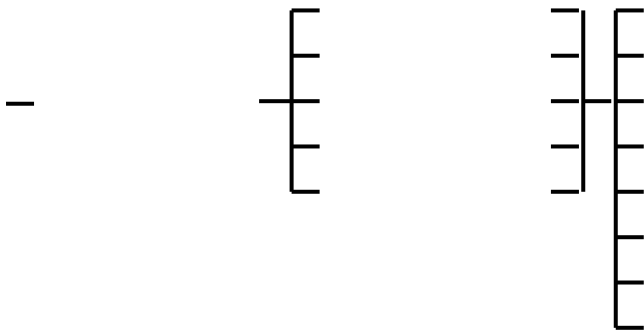
2007

2002

1997

137



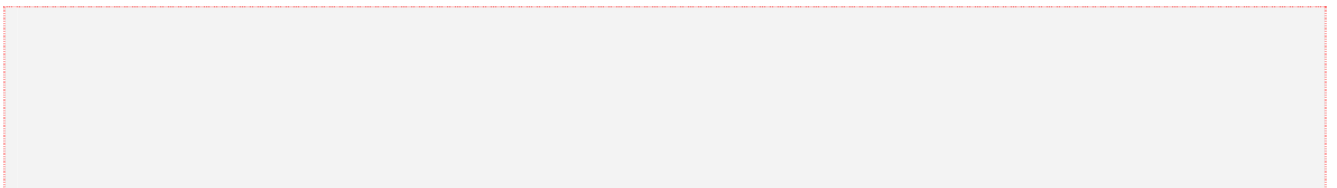



-

P. 167- 168

2008 4

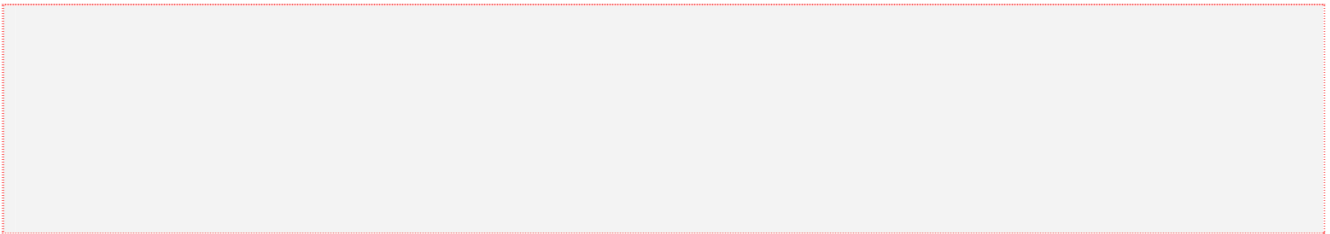
2008

[ht t p: //ar chi ve. t anabi . ac. j p/bunko/t aki guchi /t - hone. ht m](http://archi ve. t anabi . ac. j p/bunko/t aki guchi /t - hone. ht m)  
[ht t p: //bunko. t anabi . ac. j p/bunko/ki t asono2002\\_ t ri al /k- hone. ht m](http://bunko. t anabi . ac. j p/bunko/ki t asono2002_ t ri al /k- hone. ht m)

WEB



2006

1, 168

10

2007

5, 639



2, 500

350

75

30

25

2006

1

200

300

1.5

1,003

AV

80



1991

2007

2006 10

13  
1,580

356

CPAC

2007

8

5,000

1,392

2006

DVD

3

31

16mm

1,300  
DVD CD LD

VHD

AV

- 2

AV

- 1

CPAC

IC

58

9:00 20:30



1995            2003  
1999

2008    1

- - 1

ABM ART bi bli ogr aphi es Møder n	19
BHA: Bi bli ogr aphi es of the Hi story of Art	
DAAI : Desi gn and Appl ied Arts Index	

- - 1






9

23

23

11 12

23

2004

- - 1

	" "	

- - 1

2007

2005



2004

2002

2004

2007

73- 74

2003

That ' s

(

)

2002 2005

2002

2003

2006

2005

2005

2002

2005

2005

1999

1981

2000

40

2004 2006

130

4,000

40 60

2003

400

90

1,600

15

“

”

10

11

12

13  
14  
15

2000	43	2	2, 303	3, 865	2, 491
2001	60	0	3, 352	3, 142	2, 843
2002	105	5		5, 642	3, 921
2003	161	12	5, 944	4, 618	4, 363
2004	134	5	4, 685	3, 567	3, 881
2005	128	1	5, 067	5, 569	4, 523
2006	129	3	3, 831	6, 104	3, 682

- -2

“ ”






200

150

180

-

P. 97

34. 4

44

			30	
2006		26, 740, 800		9, 656, 400

		850	2006	718
		TA		
2007		56		19. 5

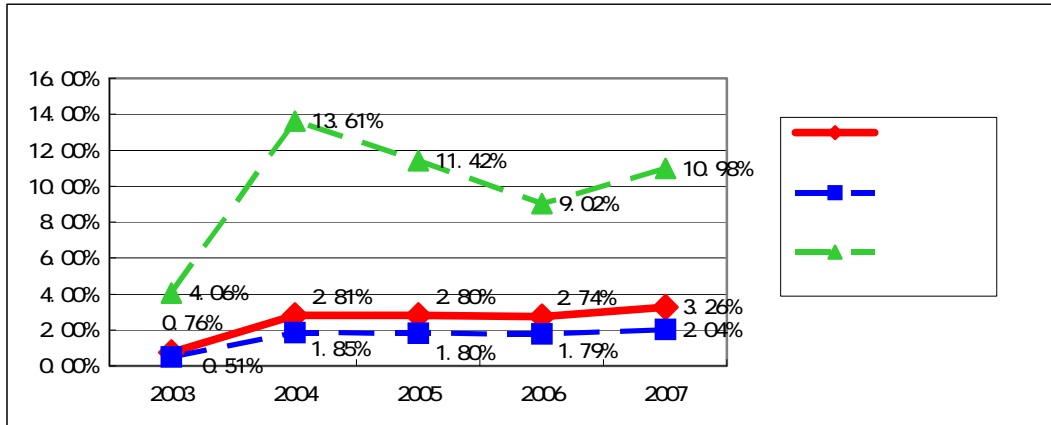
2004  
- - 1

2007

2003	13	4	8	2	20	27	540
2004	47	15	26	12	40	100	4,000
2005	47	13	25	15	40	100	4,000
2006	47	13	24	16	40	100	4,000
2007	42	11	24		50	93	4,490
				16	40		

- - 1

- - 1



- - 1

2004

2005

2006

2006

2007

- - 2

		11	3	3		20	17	340
	1 JASSO	2		1		36	3	108
		1	2			20	3	60
		14	5	4			23	508

- - 2 2007

2007 67 20 2005 2005 39 2006 53

16 998 2007 2006  
5,000

“ ” Face to Face “ ”

- - 3

2005		10		2005
		10		2004
2006		50		GEISAI
2007		50		
		10		

2005

2006

- - 3

2008




2005 4

2005 6

21 9 12

17

2005  
2007

2006  
6

2005 6 29 30

50

2005 9 22 28

2008




2004

2004

- - 4

2004		( )
2005		

2006		
2007		

- -4

45

2008 1

2004

163

2008

2007

“ 2008 1 ”

25

2007 9

2007 17

2006

2006

12

2007

26

2008




70  
100

95

- - 5 6

	2004		2005		2006		2007	
	871	98%	882	98%	871	98%	889	98%
	839	97%	839	97%	872	96%	834	96%
	839	96%	858	98%	821	97%	863	95%
	837	97%	840	98%	854	98%	814	97%
	241	95%	269	97%	281	97%	277	97%
	34		18		29		31	
	2, 330		3, 001		3, 334		2, 010	
	1, 576		1, 504		1, 375		773	
	218		106		101		50	

2007 8

- -5

	2004		2005		2006		2007	
	207	86	203	83	147	63	171	77
	190	80	156	66	138	56	145	65
	185	77	181	77	122	54	166	71
	210	83	184	80	188	81	149	67
	1, 213		1, 454		1, 315		333	
	352		250		259		100	

2007

- -6

2004

2005

X

X

2007

AED  
2006 3 AED

2006 5  
2006 AED

2007 10

- -7

13	2004	7. 26 28	38	26
14	2005	7. 26 28	38	32
15	2006	7. 25 28	25	22
16	2007	9. 5 7	55	55

- -7

1

3,000

1,500

2007

2004

9:00 17:00

2005

8:50 20:50

2005 7

2007 10

AED




5. 25 26 29 5. 30 31			
6. 23			
9. 26 27 28 9. 29 10. 2 10			
10. 11			
10. 16			
10. 18			
10. 19			
10. 20			
11. 10 14			SPI
11. 17			
11. 20			
11. 20			
11. 29			
12. 4			
12. 20			
1. 10 12			
1. 11			
1. 18			SPI
4. 5			
4. 9			

5. 31 6. 7			
7. 3			
10. 4 5 10			
10. 17			
10. 24			
11. 8			SPI
11. 21			
11. 28 12. 7			
12. 6			
12. 20			
1. 17			
4. 18			
4. 18			

- - 8 2007

15 00 18 30                      8 50 18 30

VEB

2008 4

OB

OB

2007

10

173

60

10

12

Face to Face

OB CG  
30

18

CB

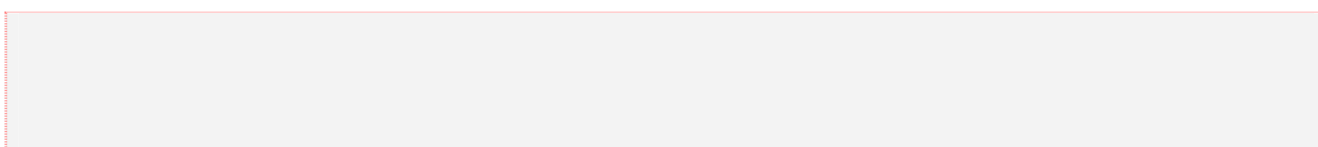
CB

100

WEB

WEB

2008

( )

14

19

176

11

520

500

2006

2007

		18	
		16	
		26	
		41	
		18	
		2	

- -9 2007




2004

14

12

53.6

2008

6

11

12

2008

2008



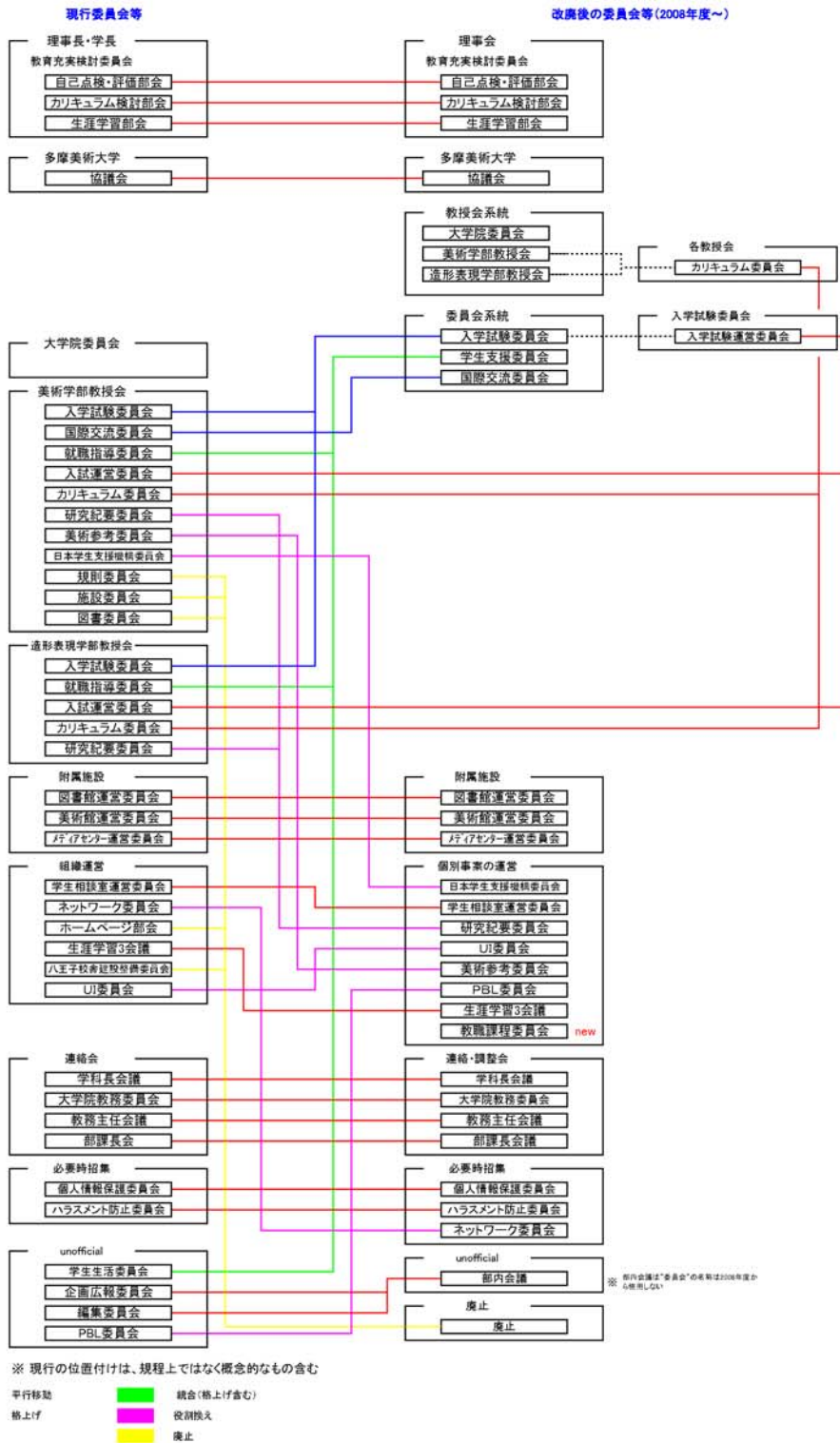

- - 1



1998 1999

2007 12  
2006 6  
2008 4

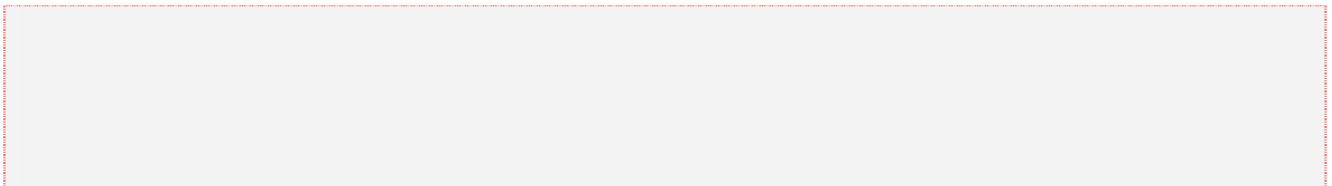
委員会等改廃略図



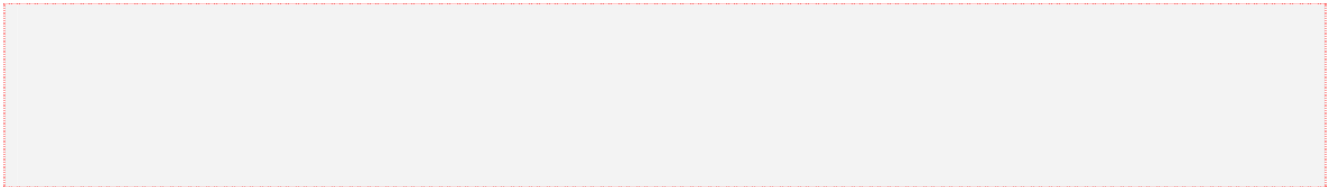
(図 I - 十 - - 1 委員会等の改廃略図)


- -2



- -3

1994 60 12 350 2007 7  
77 1992  
43  
230 120  
40

2002 2006 345 427  
82 - -1 70 110  
40  
405 547 142  
179 184  
57 35 22

90 91 2002  
86 1999  
38 40 12  
4.4 - -4  
2006 1.3

2005

20

2003

2006

51

	2002		2003		2004		2005		2006	
	34,579	65.2%	36,902	67.0%	38,125	67.0%	38,220	65.7%	42,752	70.4%
	4,842	9.1%	5,851	10.6%	9,430	16.5%	12,429	21.4%	12,378	20.4%
( )	( 4,840)	( 9.1%)	( 5,849)	( 10.6%)	( 9,428)	( 16.5%)	( 12,426)	( 21.4%)	( 12,375)	( 20.4%)
	13,617	25.7%	12,330	22.4%	9,384	16.5%	7,488	12.9%	5,585	9.2%
( )	( 1,901)	( 3.6%)	( 3,269)	( 5.9%)	( 349)	( 0.6%)	( 0)	( 0.0%)	( 0)	( 0.0%)
	53,088	100.0%	55,083	100.0%	56,939	100.0%	58,137	100.0%	60,715	100.0%
	7,932	14.9%	7,506	13.6%	6,918	12.2%	6,272	10.8%	5,646	9.3%
( )	( 5,744)	( 10.8%)	( 5,274)	( 9.6%)	( 4,678)	( 8.2%)	( 4,083)	( 7.0%)	( 3,488)	( 5.7%)
	3,966	7.5%	3,947	7.2%	4,235	7.4%	4,458	7.7%	5,424	8.9%
( )	( 2,992)	( 5.6%)	( 3,128)	( 5.7%)	( 3,233)	( 5.7%)	( 3,399)	( 5.8%)	( 3,335)	( 5.5%)
	40,577	76.5%	45,132	81.9%	47,853	84.0%	50,501	86.9%	54,795	90.2%
	563	1.1%	1,502	2.7%	2,067	3.6%	3,094	5.3%	5,150	8.5%
	53,088	100.0%	55,083	100.0%	56,939	100.0%	58,137	100.1%	60,715	99.9%

	2002		2003		2004		2005		2006	
	7,793	85.8%	7,829	85.9%	7,810	86.2%	7,829	85.6%	7,813	86.0%
	312	3.4%	299	3.3%	297	3.3%	278	3.0%	266	2.9%
	103	1.1%	4	0.0%	172	1.9%	34	0.4%	111	1.2%
	563	6.2%	592	6.5%	489	5.4%	602	6.6%	555	6.1%
	87	1.0%	70	0.8%	71	0.8%	80	0.9%	103	1.1%
	222	2.4%	315	3.5%	222	2.5%	326	3.6%	239	2.6%
	9,080	100.0%	9,109	100.0%	9,061	100.0%	9,149	100.0%	9,087	100.0%
	3,599	39.6%	3,671	40.3%	3,527	38.9%	3,706	40.5%	3,667	40.4%
	2,423	26.7%	2,400	26.3%	2,649	29.2%	3,175	34.7%	2,641	29.1%
	335	3.7%	325	3.6%	417	4.6%	472	5.2%	396	4.4%
	174	1.9%	169	1.9%	151	1.7%	137	1.5%	122	1.3%
	78	0.9%	53	0.6%	161	1.8%	38	0.4%	22	0.2%
	6,609	72.8%	6,618	72.7%	6,905	76.2%	7,528	82.3%	6,848	75.4%
	2,471	27.2%	2,491	27.3%	2,156	23.8%	1,621	17.7%	2,239	24.6%
	2,488	27.4%	4,556	50.0%	2,720	30.0%	2,649	29.0%	4,294	47.3%
	17		2,065		564		1,028		2,055	

2005

472,309

5.2

7,132

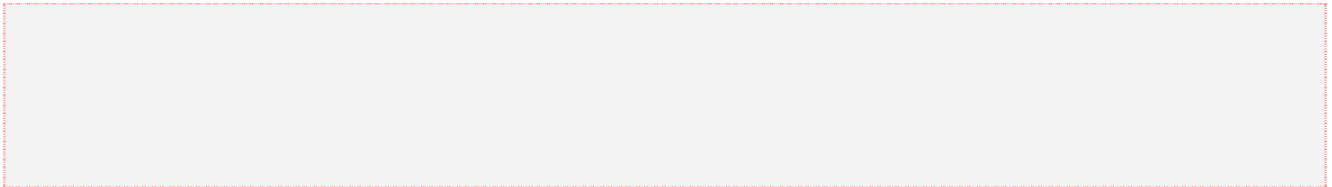
10

5

0.1

( - -1

)

1966

1989

1958

40

22. 3

2007

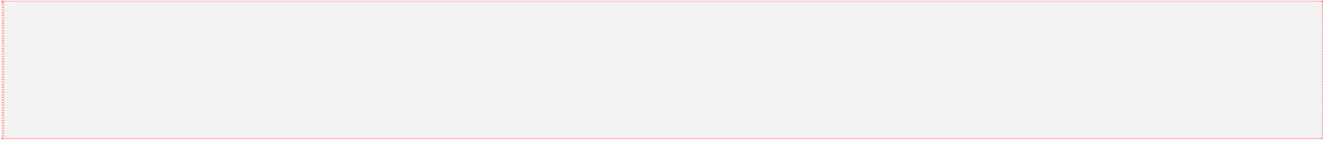
2014 - - 2

◆財務シミュレーションの設定条件[1]

【学生数および教職員数の部】	
1. 学生数	
(1)志願者数(志願率)の変動	学齢人口の減少割合で減少させた。
(2)在籍者数の変動	入学定員の1.07倍。
(3)学生定員数の変動	納付金計画書による
(4)大学院学生数の変動	納付金計画書による
2.専任教員・職員数	
(1)専任教員数の変動	原則変動しない。
(2)専任職員数の変動	原則変動しない。
【収入の部】	
1.納付金収入	
(1)入学金単価の決定	平成16年度を上限、改定見込まない。
(2)授業料等単価の決定	平成16年度を上限、改定見込まない。 納付金計画書による
3.手数料収入	
(1)入学検定料単価の改定	35千円上限。
(2)その他手数料の変動	過去5か年間の平均値。
4.寄付金収入	
(1)特別寄付金の変動	計上しない。
(2)一般寄付金の変動	計上しない。
5.補助金収入	
(1)経常費補助金の変動	過去5か年間の平均値。
(2)その他補助金の変動	過去5か年間の平均値。
6.資産運用収入	
(1)受取利息等収入の変動	保有有価証券利率+支払資金に年0.5%の利回りを乗じた。
(2)その他資産運用収入の変動	過去5か年間の平均値。
7.資産売却収入	
(1)有価証券売却収入の変動	各年度満期償還額を計上した。
8.雑収入	
(1)退職金財団交付金収入の変動	退職金支出額と相殺した。
(2)その他雑収入の変動	過去5か年間の平均値。
9.借入金等収入	
(1)長期借入金収入の変動	新規借入なし。
(2)学校債収入の変動	募集しない。
(3)短期借入金収入の変動	新規借入なし。
10.前受金	前年度納付金収入の35%相当額。
11.その他の収入	
(1)引当特定資産繰入収入の変動	基本金組入計画による。
(2)その他の経常収入の変動	過去5か年間の平均値。
12.資金収入調整勘定	
(1)期末未収入金収入の変動	過去5か年間の平均値。

◆財務シミュレーションの設定条件[2]

【支出の部】	
1.人件費支出	
■教員人件費支出	
(1)本俸アップ率の変動	前年比4.0%の率で毎年アップさせた。
(2)その他人件費の変動	前年比4.0%の率で毎年アップさせた。
(3)兼務教員人件費の変動	前年比2.0%の率で毎年アップさせた。
■職員人件費支出	
(4)本俸アップ率の変動	前年比4.0%の率で毎年アップさせた。
(5)その他人件費の変動	前年比4.0%の率で毎年アップさせた。
(6)兼務職員人件費の変動	前年比2.0%の率で毎年アップさせた。
■役員報酬支出	
(7)役員報酬支出の変動	前年比4.0%の率で毎年アップさせた。
2.教育研究経費支出	5%の率で毎年アップさせた。
3.管理経費支出	3%の率で毎年アップさせた。
4.借入金等利息支出	返済計画表による。新規借入なし。 平成14年度に事業団より10億円借入 年3.50%
5.借入金等返済支出	返済計画表による。新規借入なし。
6.施設関係支出	【土地】【建物】【構築物】【改修工事】 施設計画書による
7.設備関係支出	【美術学部】平成19年度以降 毎年度150M 【造形表現】平成19年度以降 毎年度50M
8.資産運用支出	平成19年度まで特定引当資産繰入 毎年度15億円
9.その他の支出	過去5か年間の平均値。
10.予備費	平成20年度以降 毎年度300M
11.資金支出調整勘定	
(1)期末未払金支出の変動	前年比5.0%の率で毎年アップさせた。
(2)前期末前払金支出の変動	前年比5.0%の率で毎年アップさせた。
【消費収支計算書関係】	
1.資産売却差額	H5年度 溝の口校地 1,766坪 売却@2,430千円 簿価3M。
2.減価償却費	設備関係支出の額に応じて推移させた。
3.資産処分差額	八王子校舎取壊し資産 残存価額443M 8~10年度処分
4.基本金組入額	施設・設備支出額を組入対象とした。(除償却分取得価額) 借入金による取得分は未組入とした。

32

2007  
P. 104- 105

-

8, 270

1985

20

244

2005

20

2006

23

42, 848

70

70

2006

207

45, 725

50, 000

1, 700

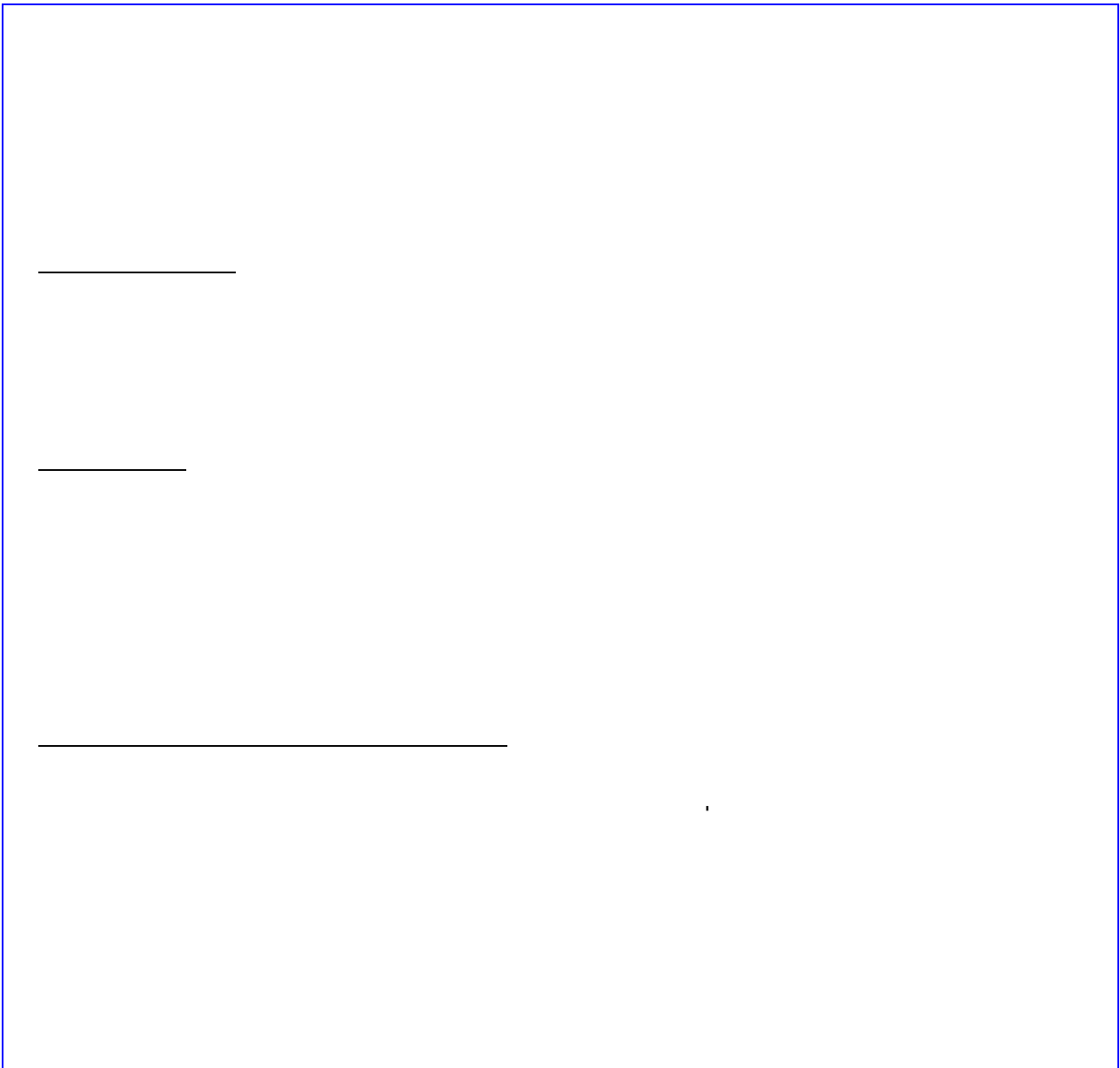
99, 675

11, 100

2006

98, 632

2007



---

10  
10

---

20%

---

f

---

BBB

---




1992

- -3

1988 3

1991 5

2004 4

- -3

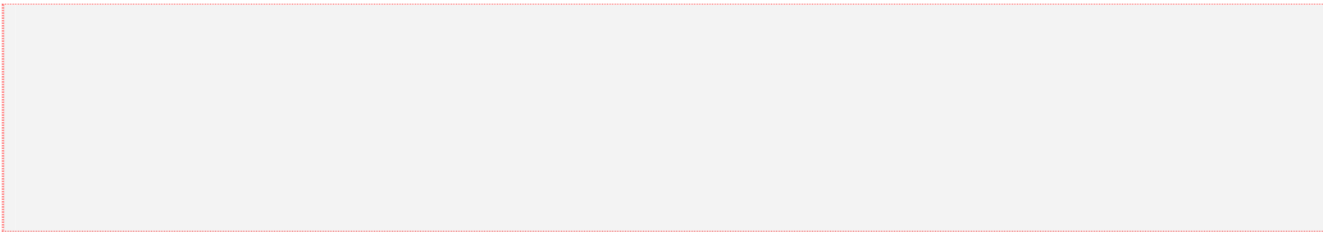


2006

40

2006

2002

2005

2006

- 4 5

		2002	2003	2004	2005	2006			
1		39.6	40.3	38.9	40.5	40.4	52.5	12.1	
2		46.2	46.9	45.2	47.3	46.9	66.3	19.4	
3		26.7	26.3	29.2	34.7	29.1	28.0	1.1	
4		3.7	3.6	4.6	5.2	4.4	8.7	4.3	
5		1.9	1.9	1.7	1.5	1.3	0.7	0.6	
6		72.8	72.7	76.2	82.3	75.4	90.9	15.5	
7		100.3	145.6	108.9	115.8	142.9	112.2	30.7	
8		85.8	85.9	86.2	85.6	86.0	79.2	6.8	—
9		1.1	0.0	1.9	0.4	1.2	2.0	0.8	
10		6.2	6.5	5.4	6.6	6.1	8.2	2.1	
11		27.4	50.0	30.0	29.0	47.3	19.0	28.3	
12		16.4	17.6	19.3	25.2	20.5	12.0	8.5	—

2005

10 5

479

5.2

( - -4 )

51

56

2004

70

36.7

30

201

		2002	2003	2004	2005	2006			
1		74.3	77.6	83.5	87.1	90.8	87.1	3.7	
2		25.7	22.4	16.5	12.9	9.2	12.9	3.7	
3		15.0	13.6	12.1	10.8	9.3	7.5	1.8	
4		7.5	7.2	7.4	7.7	8.9	5.4	3.5	
5		77.6	79.2	80.4	81.5	81.8	87.2	5.4	
6		1.1	2.7	3.6	5.3	8.5	0.6	9.1	
7		95.8	98.0	103.9	106.8	111.0	99.9	11.1	
8		80.3	83.6	90.2	94.4	99.7	92.0	7.7	
9		343.3	312.4	221.6	168.0	103.0	239.8	136.8	
10		22.4	20.8	19.6	18.5	18.2	12.8	5.4	
11		28.9	26.3	24.4	22.6	22.3	15.7	6.6	
12		385.2	280.9	274.3	212.2	159.9	302.2	142.3	
13		—	—	—	—	—	59.5	59.5	
14		93.6	95.5	96.7	97.9	97.0	96.0	1.0	
15		26.5	27.6	28.2	31.0	28.7	75.6	46.9	—

2004 20 2005 10

- -5

30

45

15

45

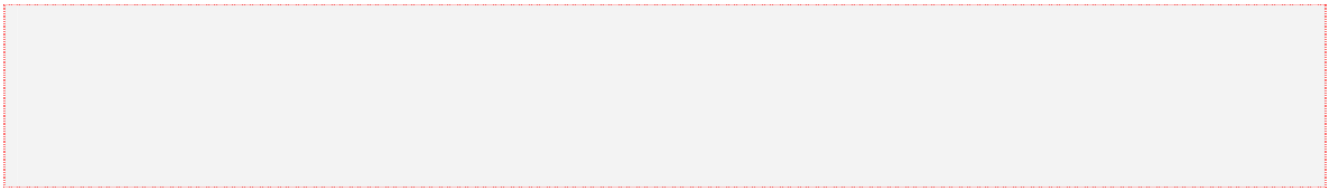
- -6

		2006				
1		90.8	83.4	87.1	3.7	
2		9.2	16.6	12.9	3.7	
7		111.0	102.0	99.9	2.1	
8		99.7	91.6	92.0	0.4	
9		103.0	185.9	239.8	53.9	
12		159.9	294.9	302.2	7.3	

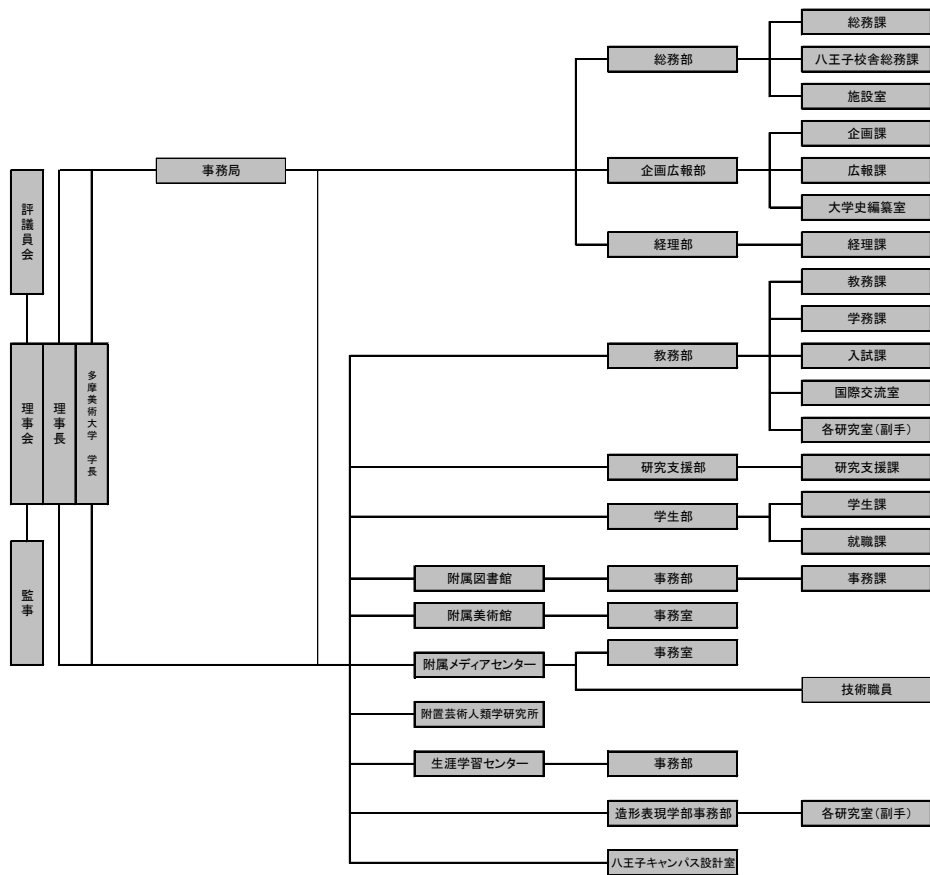
- -6

99. 7 100

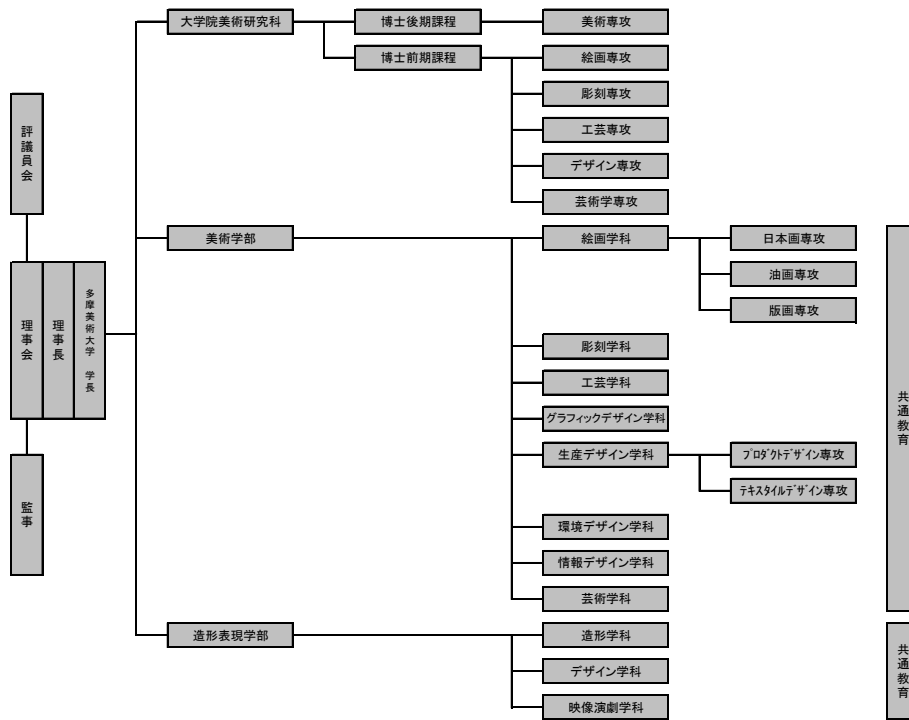


- 1 2



(図 II-十三-1 事務組織図)



(図 II-十三-2 教育組織図)

P. 181-182

P. 38-46

	2,828,635	167,648	168,337	0.12	188,893	5,013	0.07
	627,401	60,995	34,571	0.15	60,206	15	0.10
	129,592	11,786	12,263	0.19	12,071	410	0.10
	85,923	8,040	7,613	0.18	9,765	329	0.12
	2,071,642	94,867	121,503	0.10	116,616	4,588	0.06
	4,789	172	370	0.11	160	10	0.04

(表 II-十三-1 2007 年度学校基本調査速報(改))




P. 185

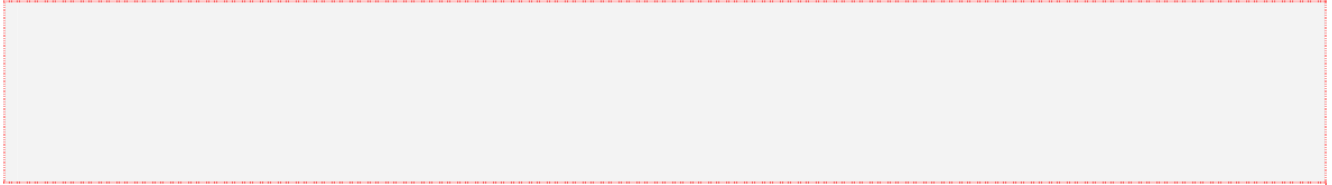
2007 12  
2006

2008

- 2

2006. 6		
2006. 6		
2006. 8		
2007. 1		
2007. 4		
2007. 10		

(表Ⅱ-十三-2 各種委員会等における企画・立案状況)

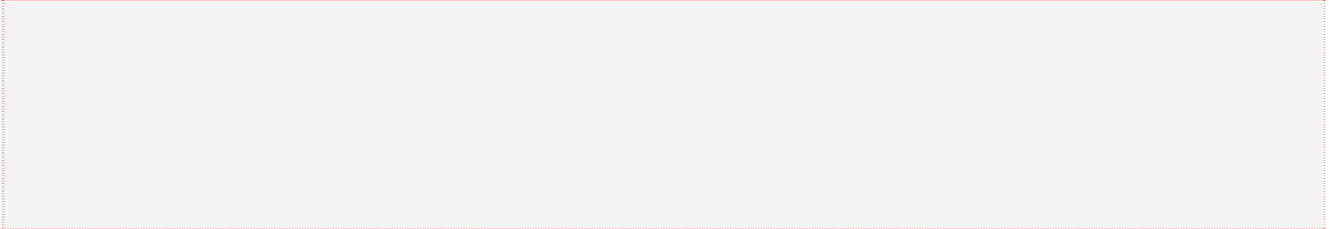



- 3

2004	5.25	1			
	9.17				
	9.21				
	9.24				
	10.8				
	10.12				
2005	5.25	1			
	7.15	2			
	9.16				
	9.20				
	9.21				
	9.26				
	12.14				
	3.2				
	3.3				
2007	5.24	1			

(表 II-十三-3 職員研修狀況)

2008

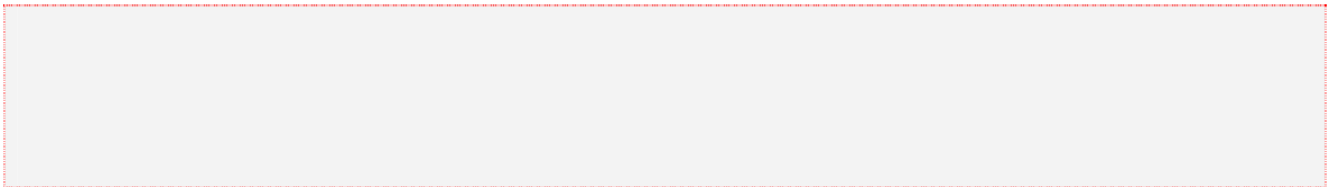
2005 6

P. 45- 46

2008



2005

2007 10



～多摩美術大学のカリキュラム編成に関する基本的考え方～

【基本的考え方を定めるにあたって】

本学ではカリキュラムに関係する事項で以下のとおりの検討課題を抱えている。

- ・教育目標に基づく体系的なカリキュラム編成
- ・基礎教育科目と専門教育科目の履修バランスが学科により異なる
- ・外国語科目の性質（実践重視か、全人教育重視か）
- ・教養的科目（※2007.1制定教養チャートによる）の提供の仕方（基礎教育科目と専門教育科目のオープン科目の違いは何か）
- ・科目区分、必修・選択必修…など、定義が一部混乱しているところがある。
- ・授業科目が多すぎる
- ・時間割の過密化（履修しやすさに重点を置いた時間割編成）
- ・履修人数の多寡のバランス欠如
- ・単位計算方法の学科によるバラつき
- ・履修の上限未設定
- ・単位認定者の明確化
- ・大学院の実質化（教育課程、時間割編成の整備）
- ・大学院の成績評価基準の明確化・厳格化
- ・他学部（学科）間の円滑な履修の推進
- ・資格課程等の科目編成上の課題
- ・学生による授業評価制度、シラバスの活用、オフィスアワー、FD等による教育活動の一層の促進

etc.

これらの問題が生じる大きな理由は“カリキュラム編成に対する認識を共有出来ていないこと”であると考えられる。一つひとつの科目は、大変魅力のある科目であることは疑いのないところであるが、上記の齟齬が生じているため、全体として考えた場合、その魅力を損なっていることも考えられる。

学生に魅力あるカリキュラムを提供するためには、これらの問題を整理し、分かり易い形で、一つひとつの科目の魅力を伝えることが必要である。

“どんな人材を育てるのか”、“そのために必要な教育は何か”を定めることで、カリキュラム編成の目的を共有し、魅力あるカリキュラムを提供することを目指す。

【定める事項】

次の事項について、基本方針を定めることとする。

- A. 卒業（修了）までに、どの程度の学修を求めるのか
  - a-1：導入、基礎、専門、高度な教育（大学院）の各教育過程において、どの程度の学修を求めるのか
  - a-2：教養・総合教育、専門教育について、それぞれどの程度の学修を求めるのか
  - a-3：そのために基礎教育科目、専門教育科目は、それぞれどの程度の科目配分であるべきか
  - a-4：これを実施するための科目区分は、どのような考えを以って整理されるべきか
  - a-5：科目区分ごとの運用条件はどうあるべきか

**基本方針概説**

A：カリキュラム編成の基礎となるものは、卒業（修了）までに「学生が何を身につけるべきか」の定義である。多摩美術大学が求める学修内容を「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」として次のとおり定めた。学生、教員がともに共有する学びのロードマップとして位置付ける。：◎

多摩美術大学ディプロマ・ポリシー	
大学院（博士）	<p>学術研究の指導者・国際的に活躍する専門職業人として、美術研究の深奥を窮める期間と位置付け、次のことを身につけることを求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のテーマを確立し、独創的な探求を行なったか</li> <li>・高度な専門性と、専門性に捕われぬ自由な探究心を両立しているか</li> <li>・美術創作研究と美術理論研究の双方にわたる総合的な視野を備えることができたか</li> <li>・海外、国内等のコンクール、個展、学会等の発表などで高い成果をあげることができたか</li> </ul>
大学院（修士）	<p>学部教育を基礎にして、更に創作・研究を深める、専門的職業人の育成期間と位置付け、次のことを身につけることを求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のテーマに沿って、創作・研究を理論と実技の両面から探求しているか</li> <li>・自立したアーティスト・デザイナー・研究者・教育者として、高い倫理性を具え、それらに対する責任を意識しているか</li> <li>・社会の一員としての自覚を持ち、幅広い領域のアーティスト・デザイナー・研究者との交流を積極的に行なったか</li> <li>・コンクール、個展等の発表などに意欲的に取り組んだか</li> </ul>
学部（学士）	<p><b>【専門教育】</b> アーティスト・デザイナー・研究者・教育者として活躍する第一歩と位置付け、次のことを身につけることを求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性、自主性を持って、創作・研究に取り組んでいるか</li> <li>・社会との繋がりを認識し、テーマを広げ、深める能力を身につけているか</li> <li>・ものごとを総合的に捕らえ、プランニングと実施を行なうことができたか</li> <li>・自分の言葉でプレゼンテーションし、他者に伝える能力を身につけているか</li> </ul> <p><b>【基礎教育】</b> 専門教育への準備と位置付け、次のことを身につけることを求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作・研究において計画力、実施力、反省力を身につけているか</li> <li>・「ものを見る」基本的な能力を身につけているか</li> <li>・表現力、技術力を充実させ、専門分野への理解を以って、それらを駆使することができたか</li> <li>・専門分野の基本的な歴史と創作・研究プロセスを理解しているか</li> </ul> <p><b>【導入教育】</b> 創作・研究の基礎づくりと位置付け、次のことを身につけることを求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作・研究の根拠、目標や課題を理解し、美術大学で学ぶことに自覚的であるか</li> <li>・ものごとを深く洞察し、可能性を探ることに感動や好奇心を持って取り組んだか</li> <li>・理解した目標や課題を具体化する基本的な技能を備えることができたか</li> <li>・素材、用具の基礎知識を身につけているか</li> </ul>

※上記学修内容を習得し、所定卒業（修了）単位の取得と卒業制作等・修了論文審査により学位を授与する。

## 基本方針詳説

「基本方針概説」において、「ディプロマ・ポリシー」を定めた。これにより、①教職員による教育目標の共有と具体化、②学生による学修目標の明確化と学習意欲の喚起、③一般への「学位水準」の保証を推進することができる。

これを十全に実施するためには、近々に以下の課題が解決されるのが望ましい。次に定める方針に基づき、関係委員会等、主幹部署については課題の解決にあたることを願う。

a-1:

- イ) 「学位」は学修の成果に対し授与される、世界的に通用する法的に認められた学術称号である。よって、その基礎となる学修に精粗が生じないことが求められる。  
また、他大学との単位互換、読み替え等が盛んに行なわれていることを鑑み、“学位の通用性”の観点から1単位あたりの授業時間数を明確に定義し、学修の質を担保することが望ましい。学科(専攻)内における分野によって、年間コマ数に差異を生じていることも是正すべきである。: ○
- ロ) 「学位」は対外的に学修の成果を保証するものであるから、学位の信頼を損ねかねない頻りに過ぎるカリキュラム体系の変更は望ましくない。カリキュラムの弾力的な運用を図るためには、カリキュラムの体系を変更するのではなく、個々の授業内容を改善することで実現することが望ましい(新旧カリキュラムの並存や、新・旧カリキュラムの振り替えが頻繁であることは適正ではない)。そのためには授業科目名をシンプルなものに改め、サブタイトルの変更等により弾力的な運用を高めることが望ましい。: ○
- ハ) 学修に精粗が生じないこと、他大学との単位互換、読み替え等に対応した“学位の通用性”の観点から、成績評価における運用の改善を行い学修の質を担保することが望ましい。

- ①教育目標の明示と具体的な授業計画の提示と実行が、成績評価に信頼性を付与する前提である。シラバスにおいて、a. 教育目標、b. 各回ごとの授業内容、c. 成績評価基準、d. 予習についての指示、e. 教科書・参考文献、f. 履修条件等、を明示し、授業計画に基づく授業実施を改めて各教員に願う。  
また平成19年度より、教科書・参考文献を図書館で複数整備(リザーブド・ブックセルフ)したので、授業内での一層の活用を願う。: ◎
- ②成績評価を現行の「A・B・C・D」から、「S・A・B・C・D」へ、特段の優秀者を明確にし評価精度を高め、厳格化すると共に、学習意欲を喚起することが望ましい。  
これについては、早急の実施を願う。: ◎  
GPAの導入については、実技系科目に相応しいものであるか評価の分かれるところであるので、十分な議論を願う。: △
- ③その基礎となる成績評価方法において、担保すべきルールを定め、個人、学科等による極端な評価方法の偏りを避けることが望ましい。  
美術大学においては、その特性からPBL(※)による授業手法が有効である。この手法を用いた場合、教員とのコミュニケーションだけでなく、一人の学生のプレゼンスや発言が大勢の学生に影響を与え、学習効果を向上させることがある。この際、学生同士が有機的に影響し合う“場”に居ることは非常に大切である。その趣旨から出席率は最低担保されるべきと考えられる。  
※PBL (Project based learning) : 学習者に実際のプロジェクトや擬似的なプロジェクトを体験させることにより、課題解決の手法や能力を修得させる育成手法  
その他、チェーンレクチャーや批評会等の多人数による評価の方法と単位認定者の明確化、追試験の資格等が考えられる。: ○
- ④上記で担保された学習の質については、学生本人、対外的双方に明示することにより、趣旨が活

かされる。よって各評価の定義を、点数だけでなく解り易い文言等で表現し、成績証明書の裏面に表記する等の措置が望ましい。

【実技系科目】

- S (合格) : 学修目標を大幅に上回り他の学生の模範となっている
- A (合格・100~80点) : 学修目標を十分達成し、新たな目標設定を行なっている
- B (合格・79~70点) : 学修目標を十分達成している
- C (合格・69~60点) : 学修目標を概ね達成している
- D (不合格・59点~) : 学修目標を大幅に下回っている (又は欠席により資格がない)

【学科系科目】

- S (合格) : 学修目標を大幅に上回り他の学生の模範となっている
- A (合格・100~80点) : 学修目標を十分達成し、新たな目標設定を行なっている
- B (合格・79~60点) : 学修目標を十分達成している
- C (合格・59~50点) : 学修目標を概ね達成している
- D (不合格・49点~) : 学修目標を大幅に下回っている (又は欠席により資格がない)

※ 「A」対象者のうち、特段の優秀者に「S」を与えることができる。

上記のとおり成績評価基準を定義した。これについては、早急に実施をお願いする。：◎

⑤成績証明書はひとつ一つの科目に対する成績評価を明らかにする他、当該学生の履修歴を通じて  
同人の学習の取り組みを明らかにするものであるから、“D (不可)”とされた科目についても、  
成績証明書に記載することが望ましい。“D (不可)”の記載により、科目履修を自由に行なうこ  
とが制限されることも考えられるので、これについては議論を尽くす必要はあるが有力な検討課  
題の一つである。：△

これをクリアするために、a-1 のハ) の①で述べた履修指導の適切性を担保する措置を一層促進  
することを改めてお願いする。：◎

⑥また、学習の質を担保する方策として、各年次における履修単位の上限設定を行なうことも検討  
課題の一つである。：△

ホ) これらにより、「学位水準」の保証が高められる。また現在、大学基準協会の認証評価申請を進めて  
いるところであるが、適合認定を受けた場合、認定マークを各種証明書 (英文含む) の裏面に記載  
することとする。

これについては国内だけでなく、ディプロマ (ディグリー) ・ミルの問題が生じている海外におい  
ても、本学の授与する学位 (単位) の信頼性を保証し、本学学生 (卒業生) の利益を損わない措置で  
ある。：◎

a-2、a-3:

イ) 機関として保証する学位の観点から、基礎教育科目と専門教育科目の履修配分が、学科 (専攻) ご  
とに異なることは望ましくない。基礎教育科目と専門教育科目の履修配分を定めることが望ましい。  
学科 (専攻) ごとの特殊性を鑑み、基礎教育科目と専門教育科目の履修配分については目安値と、  
一定の許容値を以て実施する等の措置であっても良い。：○

ロ) 外国語関連科目は、“大学として求める外国語能力”という考え方に対する配慮をいささか欠いた  
まま、基礎教育科目と専門教育科目双方に設置されている現状がある。“教養チャート (2007.1 制  
定)”において、“他者に向けて発信できるコミュニケーション能力の習得”を外国語関連科目の趣  
旨として掲げた。これに基づき、外国語関連科目に対する具体化レベルの考え方を再び整理するこ  
とが望ましい。

尤も、教養的な性質を持つ外国語関連科目も必要であろうが、これについては科目設置数にメリハ

2007.10定  
(カリキュラム検討部会)

りをつけ、科目区分を上記とは区別するなど、科目設置の趣旨が理解され、共有される仕組みを設けることが適切であろう。：○

考え方の整理を行い、外国語関連科目に対し学部として取り組めることが可能な設置体制を整えることが求められる。また学科等ごとに異なる外国語関連科目の必修指定についても、“大学として求める外国語能力”を基に検討し直すことも課題の一つである。具体的措置については、能力別クラス編成などが有効であると考えられる。これについては、現在のカリキュラムの適用される学生に配慮して経過的に実施することが望ましい。：△

- ハ) 上記より、共通教育センターと専門学科は一体となってカリキュラム編成に注力しなければならない。“教養チャート(2007.1制定)”において定めたとおり、本学における教養・総合的教育とは専門学科、共通教育センター両者の連携により提供される科目を指す。よって教養・総合的教育は、全学的な財産であり、全学的なコンセンサスの下に提供されることが相応しい。共通教育センターにおけるカリキュラム編成については、専門学科教員の意見を十分に反映させコンセンサスを得る体制の下で議論を行なうことが相応しい。例えば、カリキュラム委員会等において共通教育センターの設置する科目について十分な議論を尽くす等の措置が有効であると考えられる。これについては、初期的な取り組みとして共通教育センターにおけるカリキュラム編成の打ち合わせに専門学科教員が参加する、または意見交換会の形であっても良いので、早急に対応をお願いする。全学的な利益を損なわない配慮を以って、上記の取り組みをお願いする。：◎  
また専門学科、共通教育センター双方において、お互いの授業に参加するなどの運用面での連携も有効であると考えられる。：△

a-4:

- イ) 科目区分には、各々の定義が定められ、区分ごとに運用のルールが定められるのが望ましい。科目区分の定義については、次の性質に定義、区分するのが望ましい。

- ①専門性の高い科目
- ②基礎的知識を得るための教養科目
- ③芸術・デザインを主軸とする領域を統括する教養科目

上記のうち、①専門性の高い科目の中で、教養的側面を持つ科目については、他学科に提供することで、学習機会の多様化を促進することが望ましい。：○

- ロ) 上記の区分により授業科目の仕分けを行い、内容の重複、科目区分との適合性を整理し、スリム化することが望ましい(設置科目数でなく、考え方のスリム化含む)。現在、基礎教育科目についてスリム化の議論がなされているが、専門教育科目においてもスリム化が望まれる。専門教育科目においても過密化が見受けられ、結果として選択の幅を狭めかねないことを危惧する。  
スリム化により、学生に対し次の効果が見込まれる。：○

- ①スリム化により、履修すべき授業科目を分かり易く提供できる。
- ②時間割の過密化を解消し、日時重複による履修不可能科目を減少させる(講義科目、資格関連科目など)。

a-5:

- イ) ①専門性の高い科目については、①専攻分野の学生のみが履修可能な高い専門性を有する科目、②専攻分野外の学生が見識を広めるために履修可能な教養的側面を持つ科目、に仕分けすることが望ましい。この仕分けにより「②専攻分野外…」の性質を有する科目をオープン科目として他学科に提供することが望ましい。  
「②専攻分野外…」の性質を有する科目をオープン科目として他学科に提供した場合、a-4のイ)

の③で定義した「芸術・デザインを主軸と…」とは性格を異とするものである。また①-④については実技レベルの低下を招かないこと、③については講義を中心とすることが前提条件である。専門学科と共通教育センターはa-2・3のハで述べた通り、十分な議論と連携を行い内容の重複や科目区分の適合性を精査し、授業科目の統合・整理によるスリム化によってa-4のロ)で述べた学生に対する効果を高めることが望ましい。：○

- ロ) 「②基礎的知識を得るため…」については、例えば1～2年次と言うように、履修の学年制限を設け、趣旨を明確にする等の措置が望ましい。：○
- ハ) 「③芸術・デザインを主軸とする…」については、履修の学年制限を設けないことが望ましい。これについては上述したとおり、オープン科目とは趣旨が異なるものであるから、重複が生じないように、趣旨を明確にし、整理するのが望ましい。：○
- 二) また、ある科目区分の中で取得した単位は、その科目区分の中で有効である。科目区分を超えて、取得単位が有効となり得ない。：○
- ホ) この科目区分の中に、必修・選択・選択必修・自由科目等の必選区分を明確に設けることとし、定義とおりに履修案内において適用することが望ましい。  
必選区分は、次のとおりに定義(案)を示す。

又は②と③を整理統合する。

- ①必修科目：当該学科(専攻)を卒業するために必ず履修しなければならない科目  
卒業単位に含む/表記記号：◎
- ②選択必修科目：当該学科(専攻)で指定している幾つかの科目の中から、指定された単位数を必ず修得しなければならない科目  
卒業単位に含む/表記記号：●
- ③選択科目：幾つかの科目の中から、選んで履修する科目  
卒業単位に含む/表記記号：○
- ④自由科目：自由に選んで履修する科目  
卒業単位に含まない/表記記号：△
- ⑤その他：教職、博物館学芸員資格取得に関する科目  
卒業単位に含まない/表記：教職☆、博物館★

又は③と④を整理統合する。

案1については、黒字で提示したものであり必選区分を5つに分け自由科目の単位を卒業単位に含まないこととする。

案2については、案1に対し赤字で加筆したものであり、必選区分を4つに分ける。

案3については、案1に対し青字で加筆したものであり、必選区分を4つに分ける。

上記定義については、オプションな科目をどの程度提供すべきかを十分考慮し、必選区分の整理を検討願いたい。

その趣旨を引き出すために定められた必選区分ごとに、履修者数、クラス数、1クラスの最大履修者数(最低履修者数については平成19年度規定済み)などを規定することが望ましい。：○

上記のとおり、カリキュラムにメリハリをつけ分かり易さを高めると共に、重点配分を行い大学の目標と適合性の高いものに対しては、厚く措置することが望ましい。

この重点配分を行なう際に、コストと効果のバランスを十分に配慮することが求められる。：◎

その他：

これらを円滑に実施するために、次の事項についてもルールを定めるのが望ましい。：△

- ・必修・選択・選択必修・自由科目等の必選区分を十分に考慮した授業時間割を作成すること。例えば、最終時限の有効活用を図る等の措置が考えられる。

上記、定めた基本方針に基づき、期限を設け具体的な政策として実施することを、各学部教授会、大学院委員会（以下、「教授会等」という）に求める。

教授会等は、カリキュラム委員会等又は、教務課及び造形表現学部事務部に議事を付託すること。なお、両学部等に跨る事項については、教務課及び造形表現学部事務部を通じ、十分な調整を図ることを求める。

※上記基本方針の実行については、当該段落後に以下のマークを付して優先順位を表した。

- ◎：本考え方を以って実行する
- ◎'：本考え方を以って実行する。但し、事務・技術的問題がある場合は解決次第実行する。
- ：大枠の考え方を定めた。議事を付託されたものは、これに基づき詳細を検討し可及的速やかに実行する。
- △：議事を付託されたものは、検討課題として議論を行う。

以 上